

平成30年度
武道等指導充実・資質向上支援事業
実践事例報告集

令和2年6月

スポーツ庁政策課学校体育室

本実践事例報告集の活用について

本実践事例報告集は、スポーツ庁が平成30年度の「武道等指導充実・資質向上支援事業」の成果を全国各地での取組の参考にさせていただくため、委託先の各教育委員会から提出された実践研究結果の一部をとりまとめたものです。特に、地域の指導者の協力を得て、指導の充実や安全に配慮した指導方法の工夫などに取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目次

【柔道】

- ・柔道の専門家である高等学校教諭とのTT形式の授業による、安全に配慮し基本動作や基本となる技を身に付ける授業の実践例
大館市立成章中学校（秋田県）・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲・関心を高めた実践例
本宮市立白沢中学校（福島県）・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・地域指導者と連携し、武道固有の伝統的な考え方や技能の特性への理解を深め、安全・安心な柔道授業作りの実践例
小千谷市立小千谷中学校（新潟県）・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・柔道指導初心者の安全で効率のよい指導の在り方～地域指導者を活用し、連携して指導することを通して～
新城市立千郷中学校（愛知県）・・・・・・・・・・・・・ 7
- ・武道の持つ特質や考え方を日々の生活や学習につなげる授業実践を目指して
倉吉市立久米中学校（鳥取県）・・・・・・・・・・・・・ 9
- ・授業協力者との連携により生徒が意欲的に取り組み“わかる・できる”授業づくりの実践例
多久市立東原摩舎東部校（佐賀県）・・・・・・・・・・・・・ 11
- ・離島の小規模校に柔道の指導者を派遣し、保健体育担当教諭の指導力向上を図った例
五島市立三井楽中学校（長崎県）・・・・・・・・・・・・・ 13
- ・地域の指導者との連携による効果的・効率的な指導方法を通して、生徒の意欲を高める授業の実践例
千葉市立越智中学校（千葉県）・・・・・・・・・・・・・ 15

【剣道】

- ・導入段階における生徒の安全・安心を保障する授業実践例～外部指導者の協力を得た、剣道の「型」の学習を通して～
東根市立大富中学校（山形県）・・・・・・・・・・・・・ 17
- ・地域の外部指導者の専門的な指導により、生徒の意欲・技能を高めた実践例
七尾市立中島中学校（石川県）・・・・・・・・・・・・・ 19
- ・外部指導者との連携を図り、武道の礼儀や剣道の楽しさを実感することができる授業の進め方
美馬市立穴吹中学校（徳島県）・・・・・・・・・・・・・ 21
- ・外部指導者の協力のもと、教員の指導力と生徒の技能を効果的に高める剣道授業の実践例
日之影町立日之影中学校（宮崎県）・・・・・・・・・・・・・ 23

【相撲】

- ・外部指導者と連携して相撲の楽しさや喜びを味わわせ、安全に配慮して取り組んだ授業の実践例
能登町立能都中学校（石川県）・・・・・・・・・・ 2 5

【剣道・空手道】

- ・実技指導協力者の派遣を通して、剣道の授業経験の浅い教員の指導力を高める実践例
磐田市立向陽中学校（静岡県）・・・・・・・・・・ 2 7

【空手道】

- ・地域の指導者を活用した安全で楽しい武道領域（空手道）の授業づくりの実践例
田川市立中央中学校（福岡県）・・・・・・・・・・ 2 9

【なぎなた】

- ・地域の外部指導者と保健体育担当教員との連携による効果的な指導の在り方
松山市立北条南中学校（愛媛県）・・・・・・・・・・ 3 1

【弓道】

- ・聴覚特別支援学校における武道の実践例
静岡県立静岡聴覚特別支援学校中学部（静岡県）・・ 3 3

【ダンス】

- ・新学習指導要領に則ったダンス指導の充実に向けて、地域の中学校教員が連携して授業改善に取り組んだ事例
盛岡市立下小路中学校（岩手県）・・・・・・・・・・ 3 5
- ・地域の指導者との連携で技術指導を充実させた実践
新城市立鳳来中学校（愛知県）・・・・・・・・・・ 3 7
- ・地域の指導者を活用したダンス授業の実践例
熊野市立有馬中学校（三重県）・・・・・・・・・・ 3 9
- ・天理大学創作ダンス部と連携し、生徒の興味・関心を高めた実践例
五條市立五條東中学校（奈良県）・・・・・・・・・・ 4 1
- ・地域の指導者と連携したダンス（現代的なリズムのダンス）指導の実践例
須崎市立朝ヶ丘中学校（高知県）・・・・・・・・・・ 4 3

【その他】

- ・講師を招き、アルペンスキーにおける児童の技術と教員の指導力を高める実践例
小国町立小国小学校（山形県）・・・・・・・・・・ 4 5
- ・小学校の課題が見られる領域（器械運動）に外部指導者を派遣し、授業の充実と教員の資質向上を図った例
諫早市立西諫早小学校（長崎県）・・・・・・・・・・ 4 7
- ・長距離走の授業を集団化し、場の設定等を工夫することで、生徒の学習意欲の向上を目指した実践例
高島市立湖西中学校（滋賀県）・・・・・・・・・・ 4 9
- ・外部指導者と連携した授業づくりを通して、教員の授業力向上と児童の走・跳の運動に関する興味、関心、意欲を高めた実践例
宮崎市立江南小学校（宮崎県）・・・・・・・・・・ 5 1
- ・小学校や地域指導者との連携及び、外部講師を活用した武道の授業実践を通して、生徒の運動能力を高めた実践例
沼田市立沼田南中学校（群馬県）・・・・・・・・・・ 5 3

- ・幅広い知識と経験を有する地元大学教授との円滑な連携によって、体づくり運動の学習における、すべての子がいきいきと活動して集団の中で高め合い認め合う体育学習の実践例

和歌山市立中之島小学校（和歌山県）・・・・・・・・・・ 5 5

**柔道の専門家である高等学校教諭との
TT 形式の授業による、安全に配慮し基本
動作や基本となる技を身に付ける授業の
実践例**

学校名 大館市立成章中学校（秋田県） 1、2 年
全校児童生徒数 49 名（男子 32 名 女子 17 名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0186（52）3022
学校メールアドレス seichujh@alpha.ocn.ne.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 専門的な知識と高い技能を有する高校教諭を外部指導者として招いて TT 形式の授業を行うことで、柔道の特性や礼法等を学ぶとともに、安全に配慮して基本動作や基本となる技を身に付ける。
- (2) 外部指導者と TT 形式の授業を構想し実施することで、指導方法についての研修を深める。

2. 実践研究の概要

- (1) 生徒の実態、学習環境、指導方法についての連絡調整を行うことを研修と捉えて実践する。
- (2) 生徒がより一層柔道の楽しさを味わうことができるように、基本動作や基本となる技の定着を図る。
- (3) 柔道の礼法や伝統的な考え方を理解することを通して、生徒に思いやりの心や公正・公平の心を養う。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 生徒の実態に応じた学習内容の検討と指導の工夫

- ① 外部指導者の予定に合わせて、2～4 校時に授業を行うようにした。外部指導者とは事前に授業の打ち合わせを行い、生徒の実態に合った指導や支援の方法について話し合った。
- ② 技の習得には、外部指導者が何度も丁寧に示範し、技のポイントを分かりやすい言葉で伝えて、全ての生徒が基本となる技を理解し、身に付けることができるようにした。

(2) 個々に応じた学習の展開

- ① 段階を踏まえたスモールステップによる指導を工夫した。
- ② ペア学習の活用による生徒同士の、見合ったり教え合ったりする場を設定した。
- ③ 話し合い活動や考える活動を設定し、理解を深めた。
- ④ 外部指導者との役割分担を明確にして TT 形式での学習の進め方を工夫した。
- ⑤ めあてや振り返りを記入する学習シートを活用した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 体育館に暖房を入れるとともに、準備運動や補強運動で体が十分に温まってから、受け身・固め技・技の習得と段階的な指導を心がけた。
2. 外部指導者による指導のもとで畳を敷き、安全に練習できる場を十分に確保した。
3. 本時の動きに関連した準備運動を多く取り入れるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1. 指導者の的確で丁寧な指導により、技能の向上が見られた。初めは柔道に対して苦手意識をもっていった生徒も、進んで活動に参加するようになった。今後は、試合を中心とした授業への移行と、それに伴う安全性の確保が課題である。
2. TT による指導でつまずきのみられる生徒への個々の支援やペア学習の見取りや声かけを手厚く行うことにより、生徒同士の学び合いが深まった。

○研究内容

【丁寧な準備運動】

本時の動きに関連した準備運動を



【抑え込みの演示】

丁寧な示範や技のポイント説明



【抑え込みの発表会】

ペアで抑え込みのポイントを考え、発表



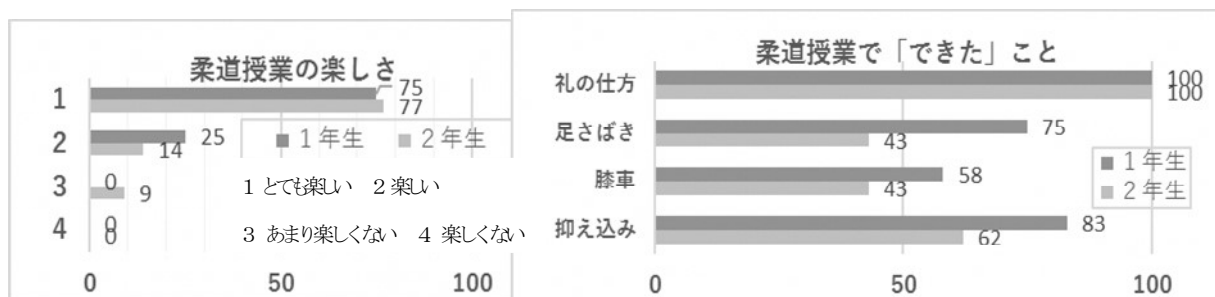
【学び合いの場面】

生徒同士の教え合い・学び合いの場面を設定



【事後アンケートの結果】

学習を振り返って（1年生 21名 2年生 12名）



【学び合う柔道】

生徒主体の学び合いを通した柔道の理解と技の習得を目指して

- ・外部指導者を活用してのTTによる授業は、指導歴がなく競技未経験者の教員にとって、大変有効な研修機会となった。
- ・生徒の事後アンケートから、学び合いの授業を行ったことで思考が深まり、技ができる喜びを感じることができたことが分かった。特に、柔道を初めて経験した1年生は「危ない」や「怖い」などのイメージを払拭し、意欲的に活動することができ、来年度へつながる学習となった。今後は、学び合いの場面を効果的に活用し、生徒主体の授業を展開したい。

地域の指導者と連携した授業により、生徒の意欲・関心を高めた実践例

学校名 本宮市立白沢中学校（福島県）2年
全校児童生徒数 237名（男子114名 女子123名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0243（44）2009
学校メールアドレス shirasawa-j@fcs.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 専門的な技能を有する地域スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科教員と連携して授業を行うことにより、武道の楽しさや充実感を味わわせ、生徒の意欲・関心を高める。
- (2) 豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材と連携して授業を進めることにより、武道指導経験が浅い教員の指導力を高める。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ・ 生徒が技の練習法などの「学び方」を身に付け、計画的に学習できる基礎をつくるとともに、「危ない」「怖い」といった負のイメージを払拭し、学習意欲を高めるにはどのようにしたらよいか。
- ・ 専門の指導者が不在の際の授業の組み立て方はどうあるべきか。

(2) 期待される成果

地域の外部指導者を継続的に活用することにより、学習の流れも身に付き、段階に応じた系統立てた指導が可能となる。2年時の授業においては、1年時の既習事項をオリエンテーション時に復習することにより、技の定着と正確性が高まるとともに、生徒の意欲・関心を高めることができると考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 専門的な技能の体得や実践練習時間を多く確保するために、事前のオリエンテーションで柔道衣の着方、たたみ方、礼法指導等の復習を行った。
- (2) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ① 事前に授業内容、昨年の既習事項、進度について打合せを行い、共通理解を図った。
 - ② 教員がT1、地域の指導者がT2となり授業を進め、受け身が十分にできていない生徒には、個別指導を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業開始時及び終了時の健康観察の徹底及び身だしなみの確認。畳の上に物が落ちていないか、破損部位はないか等について、毎時間必ず確認を行った。
2. 体格別の整列隊形、同程度の体格の者同士での練習形態とした。授業の始めには前時の内容を必ず復習し、基本となる受け身の技能定着を図った。
また、ルールの指導とともに、禁じ技を用いないなど、約束を守って活動することを確認した。

○成果の意義と今後の課題

1. 中学1年生で習ったことを反復練習しながら、新しい技にも挑戦した。まとめとして簡単なルールで試合を行い、判定の仕方を学んだり、攻防の楽しさを味わったりすることができた。技ができるようになったり、上手になったりすることで、おもしろさを実感できた生徒が多かった。
2. 同一の指導者による継続した指導となったことから、系統的な指導により技能の向上を実感し、柔道のおもしろさや充実感を感じるようになってきた。しかし、新しい技の習得の際、限られた時間の中でどのようにして全員に理解させていくかが課題となっている。

○研究内容

【基本となる技の習得】

固め技、投げ技の基本動作の繰り返し練習を行わせた。



【固め技の乱取り】

体力にまかせた無理な技をかけないように指導した。



【けが防止、安全面に配慮した指導】

毎時間、各種受け身の練習を徹底して行った。



【ホワイトボードの活用】

ホワイトボードに毎時間のめあてや学習内容を提示した。



【授業の前後の意識の変化】

柔道に対するイメージ等、授業の前後での意識の変化と感想

柔道に対するイメージ、感想（2年生 男子34名 女子39名 合計73名）

授業前

授業後

※複数回答可

こわい	19.4%	こわい	6.0%
危ない	46.3%	危ない	22.4%
楽しそう	62.7%	楽しかった	91.0%
やりたくない	23.9%	やりたくない	9.0%
やってみたい	67.2%	やってよかった	91.0%

感想

- ・ 投げられるときは少し怖かったが、受け身がきちんとできれば大丈夫だと思った。
- ・ 自分の気持ちが前向きに変わった。
- ・ 相手に対する敬意や感謝の気持ちを学んだ。
- ・ できる技が増えて楽しかった。

【本事業終了後のまとめ】

中学校武道必修化指導書映像集「柔道」を活用した視覚的指導

オリエンテーション時及び外部スポーツ人材の講師がいない授業では、中学校武道必修化指導書映像集を用い、既習事項の復習と定着を図った。

2年間の同じ指導者による継続した指導が生徒たちに安心感を与え、柔道への興味・関心が高まり、取組の意欲向上につながったと考えられる。来年度の実施についても今後検討したい。

【様式1】1 ページ目

地域指導者と連携し、武道固有の伝統的な考え方や技能の特性への理解を深め、安全・安心な柔道授業作りの実践例

学校名 小千谷市立小千谷中学校(新潟県)1年

全校生徒数 476名(男子240名 女子236名)

種目等 武道(柔道)

(本事例に係る問合せ先)

電話番号 0258(82)2297

学校メールアドレス yachu@ojiya.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 指導経験が豊富な地域指導者と保健体育科教員が連携・協力して授業を展開することにより、生徒が安心・安全に活動に取り組むことのできる環境を作ることができる。
- (2) 地域指導者の専門的な知識や技能を生かすことにより、柔道の成り立ちや伝統的な考え方や行動様式を理解した上で、柔道の技能を身に付けることができる。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 柔道の成り立ちや本来の意義についての理解や基本となる技を身につけることを目指す。
- ② 地域指導者の専門性を生かし、保健体育科教員と連携しながら手本を見せるなど、より分かりやすい授業の実践。

(2) 期待される成果(仮説)について

- ① 経験豊富な地域指導者から専門的な指導を受け、受け身や行動の仕方の意義やルーツ等を知ることにより、柔道に対する意欲や基本技能の向上が図られる。
- ② 地域指導者と保健体育科教員が連携して、示範をしながら授業を展開することで、技の具体的なイメージをつかみ、安全を確保しながら技能の向上を図る。
- ③ 地域指導者と連携して指導することにより、保健体育科教員の指導技術の向上が図られる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 取組内容

- ・ 地域指導者の専門性を生かした授業づくり
- ・ 地域指導者と連携を図った指導

(2) 取組を進める上での工夫点・留意点

① 専門性を生かした授業づくり

- ・ 受け身やそれぞれの技の成り立ちを知り、日常生活にも汎用できることを知る。
- ・ 全5時間で投げ技まで学習することにより、受け身の重要性を
- ・ 地域指導者と保健体育科教員の技の示範

② 地域指導者との連携

- ・ 単元開始前に綿密に打合せを行い、授業の流れや指導内容・方法を確認する。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1 段階的な受け身・技の指導

2 畳の隙間などに留意するなどの練習場の安全確保の徹底

○成果の意義と今後の課題

- 1 指導経験が豊富な地域指導者と協力・連携して授業を展開したことにより、技の成り立ちや意義を理解した上で、生徒が毎時間楽しんで積極的に柔道授業に取り組む姿を引き出すことができた。
- 2 外部指導者から保健体育科教員がより詳しく指導方法を学ぶことが求められる。

【様式1】2 ページ目

○ 研究内容

【地域指導者の柔道講話】

特性、歴史など伝統的な考え方を指導



【受け身の指導①】

工夫を凝らした受け身の指導



【受け身の指導②】

段階的な受け身の指導



【保健体育科教員の指導力向上】

指導のポイントについて新たな視点を得る



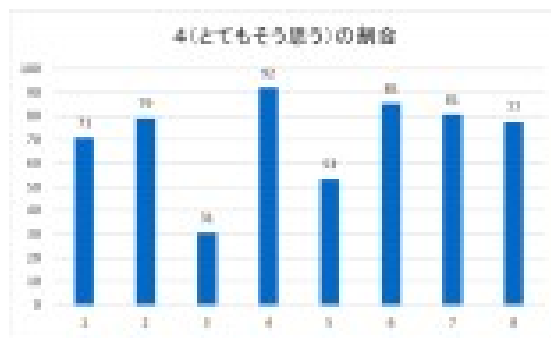
【授業アンケートの結果】

地域の外部指導者からの指導は生徒達に、良い影響を与えた

＜生徒アンケートの項目＞ 1 技能を向上させることができた 2 意欲的に学習できた 3 個別に指導してもらえた 4 安全に学習できた 5 やる気が出る声かけをもらった 6 何をするのかわかりやすかった 7 準備、片付け、活動する時間などが考えられた授業だった 8 外部指導者の方にまた指導を受けたい 授業後、生徒に取ったアンケートの結果は右図の通りである。

・「4 安全に学習できた」と解答した生徒が92%（肯定的評価にすると100%）であった。これは「なぜ受け身を取るのか」「なぜこの動きが必要なのか」を、昔の生活スタイルや人間の体のつくりについての説明を交え、分かりやすく指導した成果である。

・アンケートの結果から、8項目中6項目において70%以上の生徒が「とても思う」と感じられる有意義な授業であったと言える。



【今後の柔道授業の方向性】

次年度の指導に向けた地域指導者との継続した連携

今年度、指導経験豊富な地域指導者を招き、柔道授業を行ったことで、柔道授業に対する生徒の関心が高まり、意欲的に授業に取り組む生徒の姿が多く見られ、充実した授業を展開することができた。今年度の学習内容を踏まえ、より難易度の高い技の習得に向け、次年度も引き続き、地域指導者と連携を図りながら、柔道授業を実施したい。

柔道指導初心者の安全で効率のよい指導の在り方
～地域指導者を活用し、連携して指導することを通して～

学校名 新城市立千郷中学校（愛知県） 1・2年

全校児童生徒数 325名（男子172名 女子153名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0536（22）0362

学校メールアドレス chisato-jh@city.shinshiro.ed.jp

1. 実践研究のねらいと実践の方法

（1）ねらい

ア 柔道指導経験初心者である担当教員が、地域指導者を活用し、連携して指導することで、安全な柔道指導ができるようにする。

イ 地域指導者を活用し、生徒に武道の精神である「礼法」にふれさせるとともに、技能の向上を図る。

（2）実践の方法

ア 柔道に熟達した地域指導者の指導により、授業の導入部で、柔道学習に対する心構えを学ぶ。

イ 地域指導者が教員と共に、ポイントをおさえながら指導を行う。

ウ 抽出学級で地域指導者と共に指導内容を確認し、他の学級で、教員が指導力を向上させながら、効率よく指導をつなげる。

2. 実践研究の概要

指導時間数は第1学年10時間、第2学年11時間である。柔道の学習が始まる前に、地域指導者と担当教員との連絡会を実施し、右のとおり2学年分の指導計画を作成した。各学年1学級を抽出し、地域指導者が中心となりポイントをおさえながら指導し、それをもとに他学級は、教員のみによる指導を行う。

時間	1年の内容	2年の内容
1	道着の着方 礼法 受身	礼法 1年時の復習
2	後ろ受身 横受身	受身 袈裟固
3	けさ固 横四方固	受身 上四方固 横四方固
4	前回り受身 上四方固	受身 縦四方固 崩し練習
5	前回り受身 寝技	受身 膝車 体落とし（膝つき）
6	体さばき 膝車（膝つき）	寝技自由練習 大腰（膝つき）
7	膝車（膝つき）寝技自由練習	受身 寝技（世界一周） 立技
8	体さばき 体落とし（膝つき）	受身（評価）寝技自由練習 立技
9	受身（評価）寝技 自由練習	受身 寝技自由練習
10	受身（評価）寝技 自由練習	受身 寝技自由練習 立技（評価）
11		受身 寝技自由練習 立技（評価）

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業前に、毎回担当教員と地域指導者が、本時のポイントや安全面の配慮をするために必要なことなどの打ち合わせを入念に行う。
2. 特に1年生は、受身の練習を十分行い、寝技や膝付き姿勢からの練習を重点的に行うことによって、けがの防止に努める。

○成果の意義と今後の課題

1. 柔道指導初心者の教員が、地域指導者と連携することで、安全に指導できた。地域指導者による授業を参観することで、指導のポイントを学ぶことができ、教員にとっても貴重な研修の場となった。
2. 抽出学級以外の授業は、2名の教員が参観し合い、アドバイスしながら授業を行った。今後は教員による授業を地域指導者の方に見ていただくことで、より確かな指導へと改善していきたい。

○ 研究内容

【武道の真髄の習得】

「礼法」を指導する地域指導者



【基本技能の徹底】

ポイントをおさえた、地域指導者の受身指導



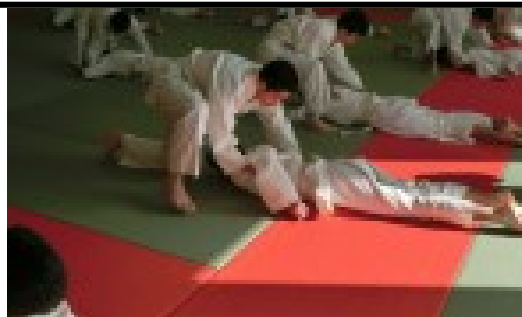
【安全を重視した寝技や立ち技の指導】

決まりごとを守った練習



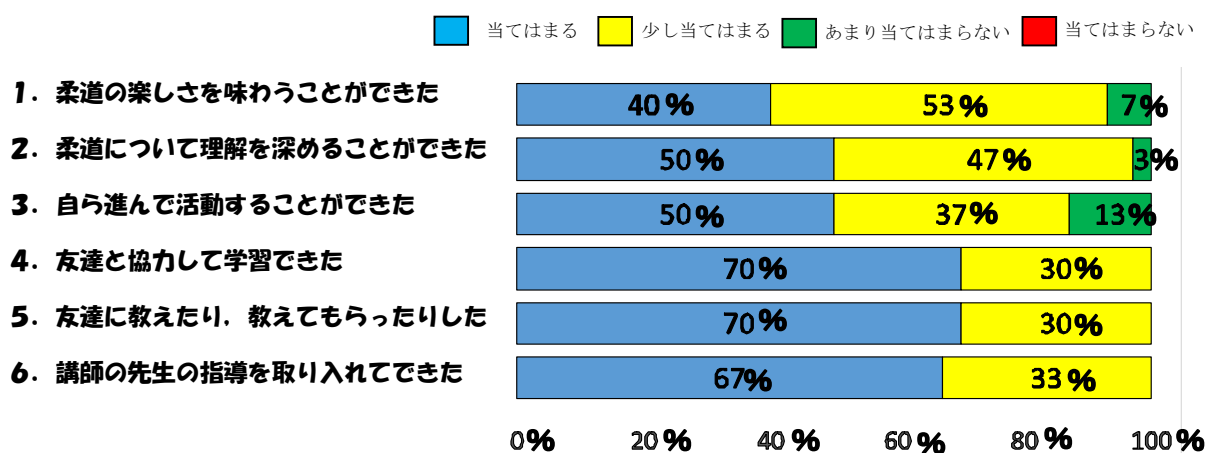
【生徒同士が教え合うペア学習】

協力し、アドバイスし合った寝技の練習



【柔道について理解を深め、楽しみ、友達とかかわりながら活動することができた生徒たち】

1、2年生の柔道の授業のアンケートの結果より



【豊富な経験を活かした指導】

高校や中学校での指導経験を活かした、地域指導者による安全な柔道指導

授業の始めに立礼や座礼など、礼の仕方から柔道をするにあたっての心構えまで、丁寧に指導して下さった。また日常生活において、転倒した際に体を守るための腕の付き方や体の使い方など、受身とつながることを教えて下さった。さらに立技での「相手を投げた後に相手の腕を持ち上げ、相手が頭を打つことを防ぐ」のは、安全面だけでなく相手を思いやる心につながる指導であった。他のスポーツにはない、柔道ならではの特性である。寝技に入るときは、お互いの位置関係や衝突を回避した組み方や決まり事など、柔道の経験が豊富な指導者だからこそできる授業をしていただいた。本年度は柔道の指導経験が浅い教員が担当したが、受身や寝技、立技の指導など、指導書だけでは分からないことを学ぶことができた。この事業は、生徒のみならず、指導経験のない教員にとっても有意義なものであると考える。

**武道の持つ特質や考え方を
日々の生活や学習につなげる
授業実践を目指して**

学校名 倉吉市立久米中学校（鳥取県）全学年

全校児童生徒数 126名（男子67名 女子59名）

種目等 武道（柔道） 全学年（1・2・3年生）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0858（28）1241

学校メールアドレス kume-j@mailk.torikyo.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- ① 生徒と指導者や生徒同士の武道（柔道）の関わりを通して、相手を思いやり尊重する態度を養うと共に、日本古来の武道（柔道）の伝統的な考え方や行動を身につける。
- ② 地域の指導者と連携し、基礎的・基本的な知識や技能を身につけるとともに、安全に留意したきめ細かな授業を展開する。

2. 実践研究の概要

- ① 保健体育科教員（T1）が中心になって全体指導を行いながらも、授業協力者（T2）とともに個人の特徴や技能に応じた指導を行うことで、一人一人を活かす指導ができると考えられる。
- ② 柔道指導者としての知識・技能や礼儀など日本古来の考え方を指導することで、普段の生活へも礼儀や考え方などの行動が波及するのではないかと考えられる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

具体的な取組内容・方法、取組を進めるうえでの工夫点等

1. 礼儀を重んじ相手を尊重することへの意義の理解を徹底

- ① 武道における相手を尊重する考え方や礼儀に関するキーワードとなる言葉・詩等の掲示物を壁面や道場入り口の床面に掲示し、教師の言葉かけと合わせて視覚の面においても意識をさせた。
- ② 投げられる側の痛さや安全面に関する意識を促し、投げ技における「引き手・添え手」指導の徹底をした。準備運動の動き等にも「引き手・添え手」の動きを関連付けた指導を行った。

2. 「見取り稽古」の理解の徹底

- ① 話を心で聴くことの大切さについて姿勢指導を加えながら授業の始めと終わりで徹底させた。
- ② 細かな指示やアドバイスを聴き漏らしたり、細かな手や顔（視線）の動きを見漏らすことが、技の習得に影響することを実感させるようにした。

3. 技の習得を実感するための装具や指導法の工夫

- ① 技を科学的に分析することで、自分にあった技の習得に向けて意欲的に取り組めるようにした。
- ② 本時のめあて・授業の流れを理解し、授業・技のポイントが視覚的に理解できるように掲示物や技の習得パネルを工夫した。また、マット運動における技や様々な運動種目におけるポイント（技の細かな部分のコツ）が柔道技の取得にもつながり、力だけではない事を意識づけさせた。

授業の前後に行う外部指導者とのミーティング

生徒に関する指導上の細かな情報交換、単元の指導計画や一週間先を見通した指導の打ち合わせ

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 朱色の畳の配置を工夫したり、マットを多く床面に引き運動スペースの安全確保を行った。救急箱や緊急電話を常備している。気温が低く寒い時には、ストーブで室内を暖めるなどケガの防止に注意を払った。
- 2 組み手を始める前のお互いのあいさつの徹底や投げ技の練習時における投げた後の「引き手・添え手」指導の徹底。運動スペース位置取りや見学・休憩生徒の役割意識の徹底。（危険を察知した時の動き）

研究内容

【授業協力者の個別指導】

1年生の固め技の練習で、授業協力者が個別にアドバイス



【指導者同士で行う見本】

相手の体の返し方を教師と見本を示しながらコツを指導



各学年の意識調査	学年	肯定的評価	否定的評価
積極的に取り組む ことができた	1	82%	18%
	2	84%	16%
	3	95%	5%
礼法など伝統的な 所作が身についた	1	93%	7%
	2	93%	7%
	3	95%	5%
相手を尊重する態 度を身につけようと した	1	95%	5%
	2	96%	4%
	3	94%	6%
運動のコツやポイ ントが理解できた	1	97%	3%
	2	89%	11%
	3	89%	11%

【指導者同士で行う見本】

技は手でつくり、顔でつくる（力学的な視点からも説明）



○成果の意義と今後の課題

1. 専門家ならではの説得力のある訓話やアドバイスが生徒の心に響き取り組む姿勢に影響を与えた。
2. 二人体制による指導によって安全できめ細かな指導ができた。また、技の習得につまずいている生徒や支援がいる生徒などを中心に一人一人にあった細やかな指導をすることができた。
3. 副読本中心の指導だけでは、形だけにとらわれやすく、実践に後ろ盾された考え方や技を使うときのポイントをアドバイスされることで、より幅広く動きにつながる技の習得をさせる取り組みができた。
4. 授業協力者の方の他校との兼ね合いや、校内の時間割の複雑さによって柔道の授業時間が非常に組みにくくなっている。十分な打合せの時間確保は困難で、授業前後や業間の話し合いが現状である。
5. 武道（保健体育）で行っているあいさつ（礼法指導）や聴く態度（見取り稽古）が日常の生活まで浸透しきれていない。武道の取り組みを波及させるためにも、教科だけでなく全校・家庭の日々の生活につながるような取り組みも必要だと考える。

授業協力者との連携により生徒が意欲的に取り組み“わかる・できる”授業づくりの実践例

学校名 多久市立東原庫舎東部校（佐賀県）第7学年
全校児童生徒数 326名（男子165名 女子161名）
種目等 武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0952（76）2007
学校メールアドレス tobu-taku-j@mail.saga-ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 授業協力者と連携した指導を行うことにより、生徒のつまづきやすいポイントを理解し、専門的な知識や技術指導を行うことで柔道の楽しさや意欲向上につなげる実践研究を行う。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ① 教師の柔道指導経験が浅く、生徒の“できる”ための手立ての方法が乏しい。
- ② 柔道経験者がいない。事前調査でも授業に消極的なイメージの生徒が多く技術指導等が難しい。

(2) 期待される成果（仮説）について

授業協力者と連携することで、生徒の知識理解や技術向上が高まる“わかる・できる”授業になるであろう。また、簡易試合を通して柔道の特性に触れ、意欲の高まりが期待できる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 指導案作成を授業協力者と協力して行い、指導と評価の計画は特に細かく事前に打ち合わせを行った。また、授業後に技術習得の進捗や次の授業展開を生徒の実態を把握しながら進めた。
- (2) 技術指導では、技の仕掛けや技が決まるポイントなどについて示範をし説明を交えながら的確な指導を行った。うまく技を決められた生徒に発表させるなど、視覚でのイメージ理解に努めた。
- (3) 学習ファイルを準備し、毎時間ごとに感想と“分かった、覚えた”の欄を設け、技のどこが理解できたのか具体的に記入することで授業の理解の深まりにつなげた。
- (4) グループ学習や簡易試合では、審判の役割をつくり、判定だけでなく助言を行うことで技術の向上や技の改善や修正につなげられるようにした。また、拡大ボードをグループで活用し、どんな助言や課題が出たか授業全体で共有できる場を設けた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 受け身の重要性を言葉と示範を通して指導し、準備運動で毎時間受け身の指導を行った。
- 2 固め技のポイントを明確にし、示範により誤りや陥りやすい点を紹介し指導にあたった。
- 3 グループ活動や簡易試合を行う際、体育館に簡易マットを準備してグループごとに活動できるように場の安全を確保した。
- 4 グループングでは体力や体格差などを考慮し、男女別4人6組、5人1組を設定して活動させた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 授業協力者の高い専門的な指導が、生徒の技術習得や理解につながり、生徒が意欲的に取り組む、“わかる・できる”柔道の授業となった。簡易試合では攻防を楽しみながら活動ができた。
- 2 授業協力者との連携を経て、今回専門的な技術指導や礼儀・所作等で得たものを今後の実践に活かしていくことが課題である。できれば次年度も段階的な指導法を学ばせていただきたい。

○ 研究内容

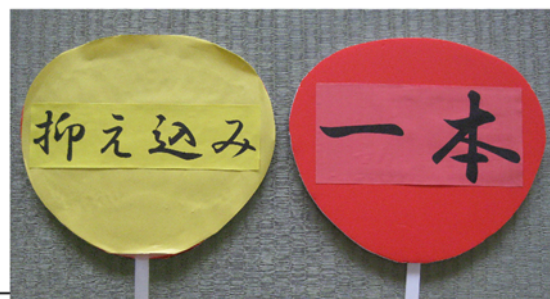
【授業協力者による指導】

固め技の「崩し・技の仕掛け」の場面



【判定うちわの活用】（右上写真が使用場面）

生徒も指導者も分かりやすいうちわを作成



【審判の役割を入れたグループ学習】

審判は、判定と気付き等をアドバイスする



【拡大学習ボードの活用】

試合終了後に記入、振り返りに全体で発表し共有する



【単元終了後の柔道授業に関するアンケート】

柔道授業終了後のアンケートより授業協力者による指導が、関心・意欲、技能の向上に有効であったか。

■ そう思う ■ どちらかと言えば思う ■ どちらかと言えば思わない ■ そう思わない

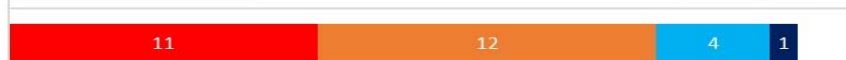
① 柔道の授業は楽しかったか



② 柔道の意欲・関心は高まったか



③ 柔道の技能は高まったか



④ 外部指導者の指導は参考になったか



⑤ 礼法・所作は高まったか



【事業を終えて】

今後の取り組みの方向性

授業協力者の導入により、生徒の技能や意欲が高まり、柔道の特性に触れ楽しい授業展開につながったと思う。実技の本や資料では理解しにくい動作やポイントを生きた教材として示していただくことができた。また、生徒が教えられるだけでなく主体的に活動することにもつながった。“わかる・できる”ための手立てや支援の方法も授業協力者を通して学ぶことができた。体育の指導者として生徒の意欲を高め、技能を身につけながら楽しいと感じられる授業を目指していきたい。

離島の小規模校に柔道の指導者を派遣し、保健体育担当教諭の指導力向上を図った例

学校名 五島市立三井楽中学校（長崎県）1・2年

全校生徒数 54名（男子33名 女子21名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 095（894）3393

アドレス f-kiba@pref.nagasaki.lg.jp

1. 実践研究のねらい

- （1）離島の小規模校で、保健体育担当教諭が女性1名という現状を受け、専門性の高い地域指導者と教員が連携を図り、武道（柔道）の体育授業の充実を図るとともに保健体育担当教諭の指導力向上を図る。

2. 実践研究の概要

（1）課題について

長崎県は全国で最も多くの離島を抱える県である。県内公立中学校171校のうち、41校が離島部に属しており、本校においても全校生徒54名という状況である。生徒数に応じて保健体育科教諭は1名であり、指導に不安を抱えている教員がいても、同僚や近隣校に相談や協力を依頼することもできず、専門性を生かした授業ができていない現状がある。

（2）期待される成果（仮説）について

- ・地域指導者をT2として授業に派遣することにより、専門的な授業がなされ体育授業の充実を図れるであろう。
- ・専門性を生かした授業展開により、生徒の理解が高まり、教員の指導力向上にもつながるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）地域指導者の協力を得た学習指導の推進

① 優れた指導力を有する地域指導者の確保等

五島市教育委員会から県教育委員会へ事業申請を行い、協力を得たい種目（柔道）の指導に適した人材を派遣した。派遣された指導者は、関係団体の講習及び県主催の武道研修会を受講し、学習指導要領の指導内容や指導方法等の理解を深めた競技団体の指導者である。

② 授業における地域の指導者と教員の役割の分担

教員が単元計画を提案し、特に技能の指導内容が発達の段階に応じているか、指導上のポイントは何かなどの助言をいただき、チームティーチングでの本時の展開を立案した。実際の指導においては、担当教員が主となり授業を進め、学習課題の提示や学習内容の指導及び確認を行い、指導者が技能のポイントの例示や運動のコツ、よい動きの紹介等を具体的に行った。また、場や用具の安全の確認については、双方で確認を行った。

（2）実際の授業において工夫した点等

- ① 保健体育科担当教員が女性教員で、武道指導の経験が少なく、武道指導に不安を抱えているため、武道研修会等で習得した簡単な内容を用い、学習指導要領及び同解説で確認をしながら単元における指導内容を明確にした。

- ② 地域指導者から生徒のよい動きの例を紹介していただくことで、学習活動に即した評価規準の具体的な生徒の姿を知ることができ、効果的・効率的な評価へとつながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 保健体育科担当が女性教員で、武道の指導に不安を感じているという実態を受けて、生徒の性別や体格の程度に応じた指導内容を工夫し、特に「受け身」や「投げ技」の指導に地域指導者を配置し、安全確保をより確かなものとした。

2. 投げ技については、地域指導者及び教員が生徒の体格や適性を見極める中で、生徒に無理のない安全な投げ方を紹介し、安全に配慮した技の習得に努めることができた。

○成果の意義と今後の課題

1. 専門的な指導により、柔道に関してより理解を深めることができ、生徒の学習意欲が高まっただけでなく、教員の指導力向上につながり、更なる研修意欲が高まった。

2. 地域指導者の授業により、柔道指導に不安を抱えていた女性教員が、柔道に対する知識や指導技術向上につながり、指導に対する不安が軽減され、保健体育授業の充実を図ることができた。

○研究内容

【段階を踏んだ受け身の指導】

安全面に配慮し、長座や中腰から受け身を行った



【発展的な技の指導】

示範し、ポイントを明確にした



【固め技の入り方と返し方】

脚の使い方や体重のかけ方等のポイントを指導



【指導内容と成果】

細やかで丁寧な指導

【内容】

- ・ 投げる動作を使った受け身の復習
- ・ 固め技の基本的な入り方と返し方
- ・ 寝技の自由練習
(1分30秒×2セット・10秒抑え込みで一本)
- ・ 振り返り(学習カードの記入)

【授業前後の意識調査から】

サポーター派遣の前後に生徒の意識調査を実施し、サポーター派遣の効果について検証した。

(1) 体を動かすことは好きですか。							(2) 体育の授業は楽しいですか。							(3) 運動のやり方やうまくなる方法を知っていますか。									
	好き	4	3	2	1	嫌い	総計		楽しい	4	3	2	1	楽しくない	総計		知っている	4	3	2	1	知らない	総計
事前	29		20	3	2	1	53	事前	29		22	1	1	1	53	事前	13		24	14	2		53
	54.7%		37.7%	5.7%	1.9%	54.7%				41.5%	1.9%	1.9%	24.5%				45.3%	26.4%	3.8%				
	92.5%			7.5%		96.2%					3.8%		69.8%					30.2%					
	好き				嫌い	楽しい						楽しくない	知っている					知らない					
事後	36		16	0	1		53	事後	42		10	1	0		53	事後	33		15	5	0		53
	67.9%		30.2%	0.0%	1.9%	79.2%				18.9%	1.9%	0.0%	62.3%				28.3%	9.4%	0.0%				
	98.1%				1.9%	98.1%						1.9%	90.6%					9.4%					
	好き				嫌い	楽しい						楽しくない	知っている					知らない					

「運動のやり方やうまくなる方法を知っていますか」という質問に対し、「知っている」という回答が、授業後に90.6%に向上している。サポーターのコツやポイントをおさえた指導が効果的に行われたことが分かる。

【教員の感想】

生徒の発達段階に応じた指導に感謝している。

柔道の指導経験がない教員が一人で指導する場合、安全面ばかりに気をとられ、受け身や無難な技しか扱うことができず、消極的な授業になってしまう。その点、柔道サポーターは、危険なことがどこなのかを熟知した上で、生徒の発達段階に応じた指導を展開されており、全生徒が「柔道は痛い、先生は怖そう」から「楽しい、先生大好き」に変わっていった。

地域の指導者との連携による効果的・効率的な指導方法を通して、生徒の意欲を高める授業の実践例

学校名 千葉市立越智中学校（千葉県）1年

全校生徒数 157名（男子75名 女子82名）

種目等 武道（柔道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 043（294）0505

学校メールアドレス och-jhs@cabinet-cbc.ed.jp

1. 実践研究のねらい

(1)地域の指導者と連携した授業を推進し、保健体育科教員の指導力向上を図るとともに、効果的・効率的な指導方法を学ぶ機会とする。

(2)地域の指導者との連携により、授業の専門性を高める。

2. 実践研究の概要

(1)課題について

①基礎的動作や基本となる技（礼法・受け身等）の定着及び運動量の確保を図る指導方法の工夫

②昨年度から継続して指導を受けている生徒（2年生）の学習の深め方

(2)期待される成果（仮説）について

①基礎的動作や基本となる技を、柔道の歴史的背景や日常生活と関連付けながら指導することで、生徒の興味・関心や意欲、技能の向上につながるだろう。

②見取り稽古を主体とした指導方法に重点を置くことで、より実戦に近づき、生徒の意欲や技能の向上につながるだろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1)歴史的背景や日常生活と関連付けた指導の推進

礼法の指導について、武士の慣習等と関連付けて指導することにより、興味や関心が高まった。

(2)運動量の確保を図る手立ての工夫

「取」と「受」に分かれた2人組の見取り稽古を導入し、より実戦形式に近づけた形での基礎練習を多く設定したことで、運動量の確保を図ることができ、生徒の意欲向上につながった。

(3)継続して指導を受ける生徒に対する学習の深め方について

礼法や受け身等の基礎的動作や基本となる技を確認程度に行い、試合を最終的な目標として設定させ、そのための見取り稽古を主体とした。その結果、生徒の目的意識が明確となり、見取り稽古にも主体的に取り組めるようになった。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 始業時の健康観察を実践し、立ち技の指導では片膝を着けた状態から、立位へと移行して行わせた。

2. 見取り稽古や試合では、体格差を配慮した組み合わせで実践した。

3. 受け身の指導では、低い位置から高い位置へと移行させながら、段階的に指導した。

○成果の意義と今後の課題

1. 地域の指導者が、基礎的動作や基本となる技を丁寧に、かつその意義を含めながら伝えることで、生徒の柔道に対する興味・関心が高まり、学習意欲や技能の向上につながった。

2. 一人一人の生徒理解について、事前に可能な限り地域の指導者に把握してもらうことが必要と感じた。

○ 研究内容

【授業中の指導①】

蹲踞姿勢からの後ろ受け身の指導



【授業中の指導②】

蹲踞姿勢→立位の後ろ受け身の指導



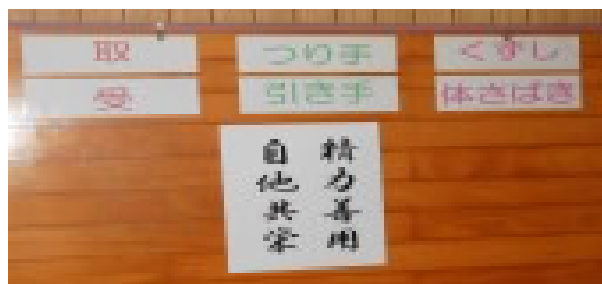
【授業中の指導③】

横受け身の指導



【学習資料】

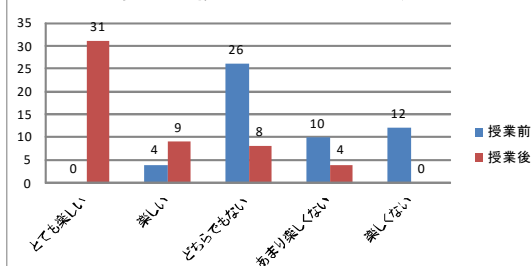
基本用語（技の名称等）の掲示



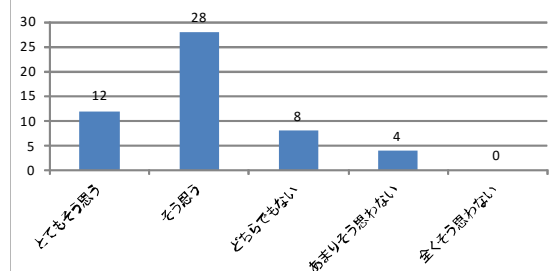
【柔道への興味・関心の高まり】

地域の指導者と連携した授業実践により、柔道への興味・関心や技能の高まりが見られた。

柔道の授業を楽しいと思うか



授業を終えて技能が高まったと思うか



【実践校としての感想】

地域の指導者との連携による効果的・効率的な指導が、生徒の意欲の向上につながった。

礼法においては、その意義や細かな動作に意味があるのだということに触れながら練習した結果、生徒は以前よりも意欲的に取り組んでいた。また、受け身についても、指導者が体のどの部位を守るのかを具体的に明示したり、そのポイントを的確に指導したりすることで、技能の習得にも効果的であった。特に、立ち技や固め技についてのポイントを生徒に分かりやすく伝える方法が体育の教師として今後の指導に大いに役立つものであった。

導入段階における

生徒の安全・安心を

保障する授業実践例

～外部指導者の協力を得た、剣道の
「型」の学習を通して～

学校名 東根市立大富中学校（山形県）1年

全校児童生徒数 124名（男子65名 女子59名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0237（47）0409

学校メールアドレス：ohotomi@theia.ocn.ne.jp

1. 実践研究のねらい

生徒にとって安全・安心かつ剣道の特性を味わわせることができる授業内容を、外部指導者の経験と知恵を活用して確立し、経験の少ない教員でもすぐに実践することができる。

2. 実践研究の概要

(1) 防具を使わずに剣道の特性に迫る実践。

(2) 生徒の主体的な活動・判断・批評ができる学習活動の実践。

(3) 外部指導者の協力を得る具体的な工夫。

《ねらい達成時の期待される効果（仮説）》

- ・単元計画、準備の負担が軽減され、広く剣道が領域選択されるであろう。
- ・安全な授業が期待できるであろう。
- ・生徒の心身の発達に応じた学び（競争・批評）が展開されるであろう。
- ・「学習した技を実際に試したい（打突してみたい）」と、自分事として発展した学習課題を将来持つことができるであろう。
- ・正しい示範と助言の下、生徒は正しい技能を習得できるであろう。

○課題を解決するために実践した（ねらい達成のための）具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 取組内容・方法について

学習した技を試す場面が「演武試合（『型』の出来栄を競う試合）」である事を生徒に示す。
（ゴールの明確化）

⇒「型」の内容：立礼・座礼・竹刀の持ち方・体さばき・足さばき・小手・面・胴の空間打突
⇒ゴールが演武試合である理由

- ・「対人」で打ち合う恐怖心をなくす。→痛い、怖いと感じている生徒が過半数を超えている。
- ・体格差を無視した対人での勝負、競争ができる。→全力で、全ての仲間と、安全に。
- ・道着や小手・胴、竹刀も含めて、道具がない状況でもできる学習できる。
→授業者の準備における負担軽減。

(2) 取組を進める上での工夫点等

依頼した講師と以下のことを実施した。

- ・学習指導要領について共通理解を図った。
- ・学習指導要領をもとに授業者が単元計画し、生徒に付けたい力について理解いただいた。
- ・礼や残心、正座（静座）、時代が変化しても毎日の生活で大切にしたいことが、武道古来の考えが今に伝わっていることについて、その理由と歴史を直接師範いただいた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 学習した技を競い合う場面を「演武試合（『型』の出来栄を競う試合）」としたこと。
2. 素足の必要性に気づかせるために、あえて靴下を履かせた状況で単元最初に活動させたこと。
3. 武道場の気温の管理。

○成果の意義と今後の課題

1. 成果

簡単な準備による実践と「生徒の安全の保障」は評価できる。

2. 課題

今回の研究テーマは指導者側の欲求が大きい。安全な活動であり、生徒自身の自己判断（判定）について議論する授業を展開できた。しかし、体育分野の大きな目的である、生徒にとっての「活動したい欲求」を満たすことはできていないと感じている。仮説に示した通り（予想通り）打突したい、試合がしたいという運動欲求をつくりだすことはできているので、来年度の取り組みが重要である。用具の開発に力を注ぐことが今後の課題と捉えている。

○ 研究内容

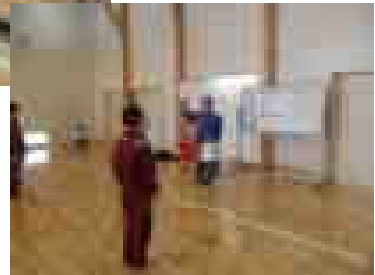
【竹刀のみの道具使用による技術習得の実際】

「美しい型」の習得を目的とし、面の中心を打突するイメージを習得するために、道具を工夫した練習場面



【外部指導者活用の実際】

植松弥内七段による「礼法」「有効打突」の考え方についての説明場面



【演武試合の実際①】

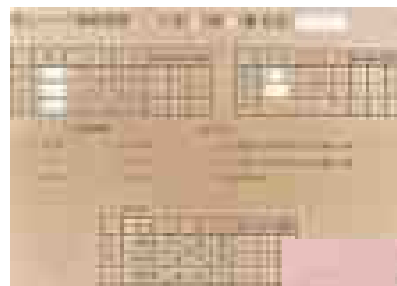
「美しい型」のポイントを押さえた生徒同士による評価場面の実際 ※美しいと捉えた生徒の旗を挙げる



評価者（審判）

【演武試合の実際②】

- ・学習カード（学びの結果のまとめ）
- ・予選の結果から、「1位～3位リーグ」に分かれての競争



【取組内容の客観的な成果・分析】（1学年38名）

来年度単元計画に必要な生徒の想いについて

- 生徒の心身の発達に応じた学び（競争・批評）について
 - ・「演武試合」の他者評価について、根拠をもって「赤」「白」を示すことができた。（23/38）
 - 《示すことができない理由》見るポイントは分かるが、自分の判定に自信を持ってない。（多）
- 「演武試合」をねらいとした教師の意図について
 - ・体格差を無視した対人での勝負・競争ができることについて賛成・どちらともいえない。
 - 《賛成》⇒11名 《どちらともいえない》⇒27名
 - 《どちらともいえない理由》・ねらいは賛成できるが、実際に打ち合ってみよう。（多）
- 「学習した技を実際に試したい（打突してみたい）」と、授業後終了後に考えた生徒の数。（33/38）
 - 《少数派理由》痛いことが不安、苦手。
- 礼法等、「剣道で学んだ剣道の特性」について
 - ・勝利したときに「ガッツポーズ」「喜び」を表現しないことの意味を学び、日常生活に活かす意味があると思うか。
 - ⇒（36/38）
- 他の単元と比較して、運動量は満足できているか。 満足できる⇒（7/38）

【本事業終了後の学校の取組の方向性】

本校の武道領域実施の方向性について

- 生徒の安全と安心を保障する視点から、剣道『型』の学習内容について研究を重ね、実施していく。
- 安全な「攻防」について研究を重ねていく。
- 安易に「面」「胴」「小手」などの用具を揃えず、生徒の運動欲求を満たす学習内容と道具の開発に努める。

地域の外部指導者の専門的な指導により、生徒の意欲・技能を高めた実践例

学校名 七尾市立中島中学校（石川県） 1. 2 年
全校児童生徒数 116 名（男子 57 名 女子 59 名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0767（66）0029
学校メールアドレス nakatyu@edu.nanao.ishikawa.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 地域の外部指導者の専門的な指導により、安全に授業を展開するとともに、学習指導要領のねらいの実現をめざす。
- (2) 外部指導者と効果的に連携し、ゴール（ねらい）を明確にした段階的な学習を重ねることにより、生徒の意欲・技能を高めるとともに教員の指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

1・2 年生全員が武道未経験者であり、教員も指導経験が少ない。よって「安全な授業の展開」「剣道の授業に意欲的に取り組み、剣道の特性に触れ、楽しさを味わう」ための外部指導者の活用のあり方を課題とする。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ① 専門家の視点による助言や様々な教材で、剣道に対する生徒の意欲を高め、系統的に技能を高めることができる。
- ② 安全に対する配慮や指導内容や指導計画を工夫し、限られた用具と時間の中で、無理なく個に対応することで、安全性を確保する。
- ③ 外部指導者から、専門的な指導技術・指導方法を学ぶことで、教員の指導力を向上させる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 生徒の意欲・技能の向上を目指した「学び合い」の場を設定

- ① 1 年 形の検定試合 紅白試合の設定。ペアで勝ちたいという意欲を向上させることで学び合いを活性化。
審判が判定理由を伝えることによるグループの学び合いの定着。
- ② 2 年 形の検定試合や紅白（トーナメント）戦の単元計画を生徒と共有することで、ペアやグループの自主的な学び合いを活性化。試合の時、審判が判定理由を伝えたり、練習ペアがアドバイスを送ったりする。

(2) 教員の指導力向上をめざした外部指導者との指導計画の共有

（単元前）外部指導者とゴールを共有し、指導計画を検討・修正する。（授業前後）教員の悩み等を率直に伝え、授業内容をさらに修正する。外部指導者による基本練習時間を設けながら技能の習熟を図る。

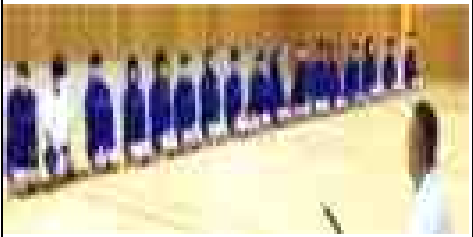
○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

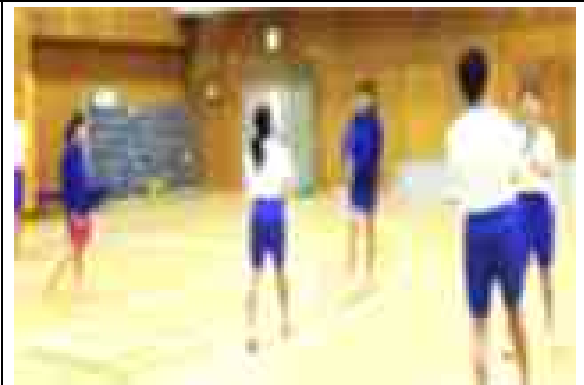
1. 個人や班毎による用具の整理整頓、丁寧な取り扱いを徹底した。
2. 練習場所や試合場をラインテープで区切り、安全に十分留意した。
3. 剣道の技能や精神の基本を十分に押さえてから、防具をつけ、攻防に発展させた。

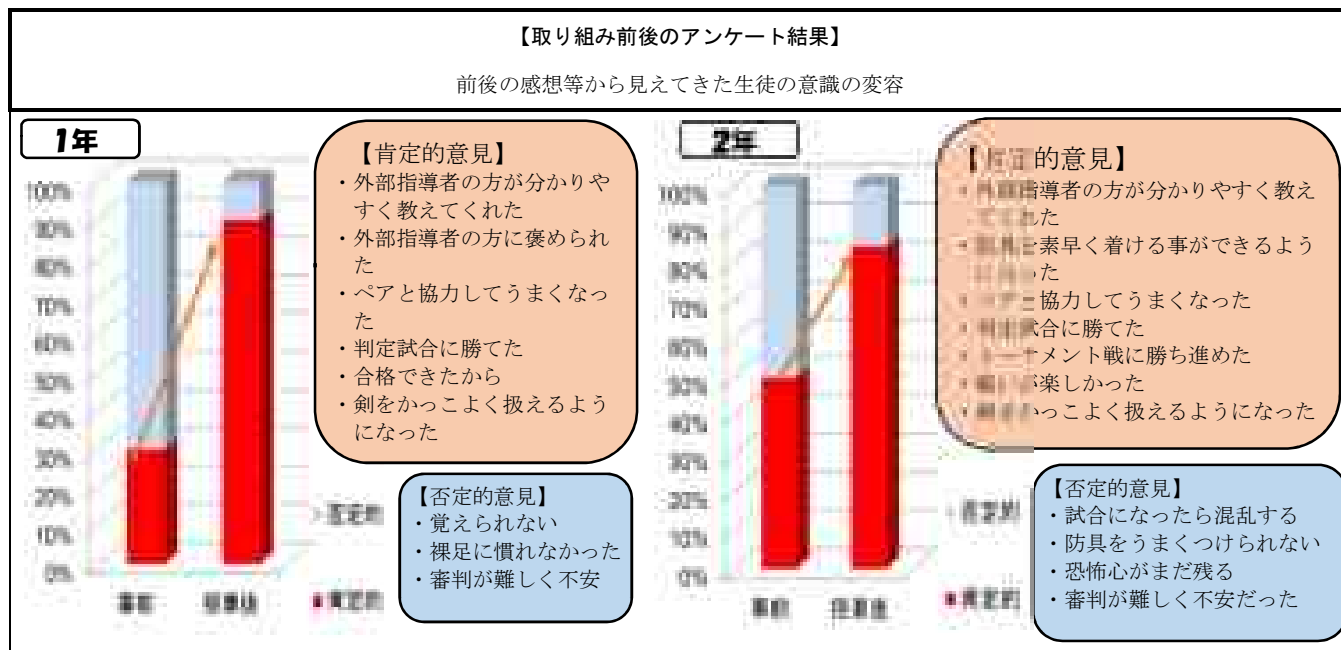
○成果の意義と今後の課題

1. 多くの生徒が剣道の本質に触れたことで、意欲的に学習に取り組み、学習指導要領のねらいを達成した。このことから外部指導者による専門的指導は大変有効である。
2. 生徒の実態や授業のタイムマネジメントに合わせ、指導の詳細部分まで計画的かつ臨機応変に連携できたことで、よい授業の積み重ねができた。このことから教員と外部指導者との十分な意思疎通は大変重要である。
3. 学習指導要領のねらいに迫るには、1・2 年生の指導計画のさらなる見直しが必要である。

○研究内容

【オリエンテーション】 真剣の意味は？歴史説明&安全指導。 	【意欲の向上】 上達した生徒とデモンストレーション。 	【自主性を育む時間】 準備したペアから 練習コーナーへGO! 
--	---	--

【1年形紅白戦の様子】 ペアでの形試合。審判は気・剣・体によって判断。 	【2年トーナメント戦】 習得した技能で簡易試合。 
---	--



【今後の剣道授業に向けて】

地域指導者との連携の継続

本事業で指導して下さった外部指導者の方は、数年前から道徳や総合的な学習の時間のゲストティチャーとして来校されている。剣道の授業においては昨年度から引き続き指導をして頂いており、本校生徒の実情や時間割などに対してご理解を頂いた。また地域の方ということで、保護者とも知り合いが多く、親しみやすく、「地域の子供を、武道を通して健全に成長させたい」という愛情を持って粘り強く指導に当たって頂いた。今後も地域の指導者の人材活用を継続的に進めていきたい。また、外部指導者の技や試合の仕方のデモンストレーション、丁寧に用具を扱う落ちついた態度等の指導は、生徒の安全指導と意欲の向上につながっており、多くのことを学ぶことができた。今後の授業においても、安全に配慮し、生徒の意欲が高まるよう指導していきたい。

外部指導者との連携を図り、武道の礼儀や剣道の楽しさを実感することができる授業の進め方

学校名 美馬市立穴吹中学校（徳島県）１・２年
全校児童生徒数 ７７名（男子３９名 女子３８名）
種目等 武道（剣道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 ０８８３（５２）１０４６
学校メールアドレス anabukichuu@city.mima.ed.jp

１ 実践研究のねらい

- （１）武道の伝統的な礼儀作法や心構え、専門的な技術を生徒により具体的に伝えることができる指導の工夫。
- （２）生徒が外部指導者の示範や身のこなしを間近で体感する事により、より剣道の本質や魅力に触れ、主体的に剣道を楽しみながら授業に取り組む事のできる指導の工夫。

２ 実践研究の概要

- （１）事前打ち合わせを行い、外部指導者の方が効果的に指導できるようした。
- （２）全員が初心者であるので、剣道に対する興味・関心が高まる指導方法を工夫した。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１ 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）事前打ち合わせ

外部指導者との事前打ち合わせを行い、指導方法や指導内容を明確にした。また、生徒の実態についても説明し、共通理解を図った。

- ・生徒数の把握（男女比）
- ・剣道経験者の有無
- ・生徒の運動に関する実態等

（２）全員が初心者の生徒であるので、剣道の楽しさ、素晴らしさを十分に感じる事ができるような指導の工夫。

- ・新聞紙や手ぬぐい、簡易竹刀等を効果的に使って、興味関心を高めた。
- ・礼儀作法の学習でも、日常生活に当てはめた礼儀作法を紹介することにより、生徒の理解度が高まった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- １ 剣道具の正しい装着を工夫しながら指導して頂き、恐怖心を取り除き安全・安心に取り組む事ができるように行った。
- ２ 正確な技を習得させることで、危険な打突による怪我や恐怖心を取り除くように指導して頂いた。

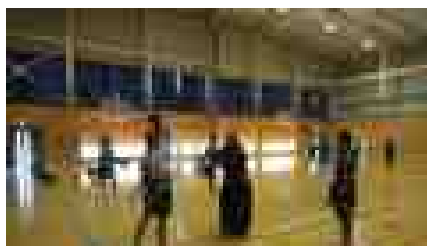
○成果の意義と今後の課題

授業後の感想では、ほとんどの生徒が「楽しかった」と答えていた。これは、手ぬぐいや新聞紙を用いた練習を取り入れることで生徒の興味・関心が高まったこと。基本練習で正確な技を習得し、安心して練習に取り組めたこと。そして、制限付きだったが、試合ができたことが考えられる。

○ 研究内容

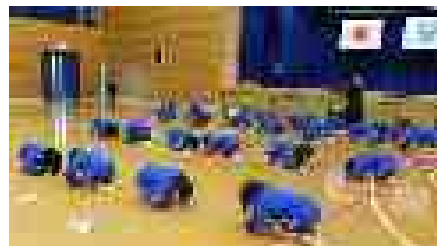
【基本練習】

正確な打突ができるように指導をしている様子



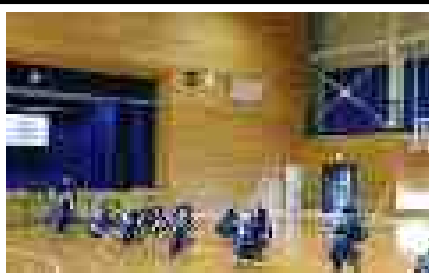
【礼儀作法の指導】

1年生に礼儀作法について説明をしている様子



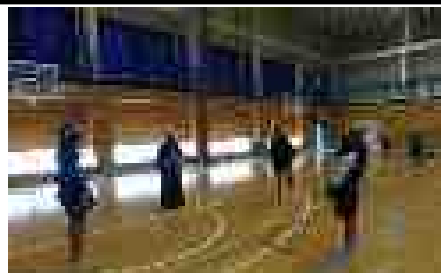
【試合の仕方の説明】

礼、蹲踞、竹刀の持ち方等、試合の仕方の説明



【3人1組での試合】

2人が試合をし、1人が審判をしている様子



【剣道授業後の生徒の感想】

- ・剣道の授業では、防具の着け方が難しく何度か友達に教えてもらったけど、最後の授業の時には、友達の防具を直してあげられました。竹刀では、面、胴、小手の練習をしました。相手を打ち終わった後の残心が、走り抜けてすぐに振り返るので防具が重くて難しかったです。一番楽しかったのは、新聞紙を竹刀で切ったことです。上手くできたときは嬉しかったです。
- ・剣道をしたのは初めてで、正座や礼の仕方、竹刀の持ち方や構え方があって、礼儀が大切だと思いました。日本の古くからある文化に触れることも大切だと思いました。防具を着けると重くて動きづらかったけど、最後はだいぶ慣れてきました。来年は、竹刀をもっと早く振れるようにしたり素早く動けるようにしたりして、一本が取れるようにしたいです。
- ・最初は難しいと思っていたけど、慣れてくると楽しくなってきました。面を着けると、横が見えなくて前だけしか見えないので動きづらかったです。最後はかなりの筋肉痛でした。でも、男子から「面」で一本を取れたのがすごく嬉しかったです。

【来年の取り組みに向けて】

生徒は、外部指導者の方の礼儀作法や身のこなしを直接見ることができ、剣道の本質や魅力に触れることができた。また、生徒が興味・関心を持てるように、いろいろな角度から指導や支援をしていただいたので、楽しく安心して授業に取り組むことができていた。来年度も是非、外部指導者の方に来て指導していただきたいと思う。

外部指導者の協力のもと、教員の指導力と生徒の技能を効果的に高める剣道授業の実践例

学校名 日之影町立日之影中学校（宮崎県） 1 年

全校生徒数 96 名（男子 46 名 女子 50 名）

種目 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0982（87）2839

学校メールアドレス 4817ja@miyazaki-c.ed.jp

1. 実践研究のねらい

(1) 剣道指導経験のない保健体育科指導 1 年目の教員の指導力を、外部指導者を活用することによって高める。

(2) 外部指導者の専門的な指導・支援により、生徒の剣道の技術を高め、礼儀作法を身に付けさせる。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

教員の剣道指導経験が無いため、生徒に対して細かな指導が難しい。また、限られた時間（9 時間）の中での内容を精選し、生徒に剣道の楽しさを味わわせることが課題である。

(2) 期待される成果（仮説）について

外部指導者を活用することで、生徒に専門的な指導・支援を行うことができると同時に、教員の指導力も高めることが出来る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 細かな指導

礼儀作法をはじめとする剣道の基本的な動き、技能等に関する指導を行うにあたって、外部指導者を活用して授業を進めた。伝統的な考え方や技の名称は、次の授業時のはじめに復習を兼ねて詳しく説明を行うことで、技能指導に加え、知職・理解の充実を図った。

(2) 授業内容の精選・充実

外部指導者と授業前、授業後に学習内容の確認や協議を行い、それぞれの役割を明確にしていくことで、スムーズな授業の進行、内容の精選、充実を図った。また、「礼儀作法」「基本技」に重点を置き、防具の着装は胴と垂のみとし、指導者や友人同士で助け合い着装することで練習時間を確保した。

(3) 楽しさを味わわせる

基本技の練習は単調になりがちだが、新聞紙を竹刀で切らせたり、実際に相手の胴を打たせたりすることで、基本的な練習がより実践的になり、生徒が楽しさを味わうことが出来た。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 学習カードに体調記入欄を設けると同時に、毎時間授業のはじめに生徒の健康状態を確認した。

2. 必ず授業のはじめには、すり足や踏み込み足を用いた準備運動を念入りに行った。

○成果の意義と今後の課題

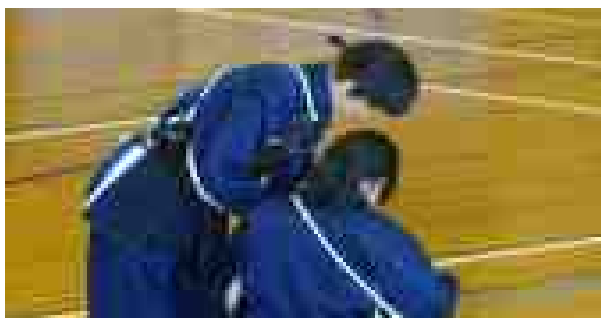
【成果】 実際に外部指導者の技能を見て学ぶことで、専門書では理解しきれない部分を補うことができ、今後指導を行う際の自信へと繋がった。また、外部指導者の活用により、生徒のより正確な技能の習得を図ることが出来た。

【課題】 自己の考えを他者に伝える思考力、判断力、表現力等の部分を上手く取り入れていくことが必要である。また、基本的な技の習得に重点を置いたため、2・3 年生への発展した指導をどのように工夫していくかが、今後の課題である。

○研究内容

【防具の着装】

友人同士で助け合うことで着装の時間短縮化に繋げた。



【準備運動】

すり足や踏み込み足を用いて体育館を走る準備運動。



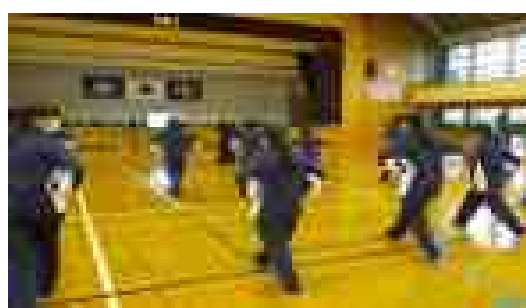
【胴打ち】

実際に相手の胴を打つ練習を行った。



【基本動作】

前後左右に動く足さばきを音楽に合わせて行った。

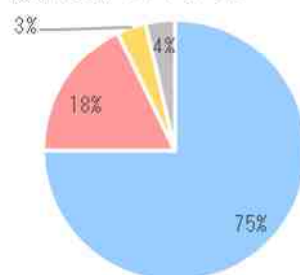


【意識調査の結果】

受講生徒を対象にした事業終了後の意識調査の結果

1 年生への意識調査の結果から、「外部指導者がいることで授業が分かりやすかった」に対して肯定的な回答をした生徒は 9 割を超え、「技能が高まった」と回答した生徒に関しても 8 割を超えた。このことから、本事業の活用は非常に有効であったことが伺える。

外部指導者がいることで、
授業が分かりやすかった



剣道の技能が高まった



■ とてもそう思う
■ まあそう思う
■ あまり思わない
■ 全く思わない

【今後の取り組みについて】

武道等支援充実・資質向上支援事業の成果を生かして

外部指導者の専門的かつ豊かな指導力により、剣道未経験の生徒が意欲的に授業に取り組むことが出来ていた。また、同じく経験の無い教員にとっても本物の剣道に触れることは、今後の指導へ大変参考になった。

今後もさらに剣道指導を充実させていくために、本事業を活用し、外部指導者との連携を図っていくことに加え、技能面に限らず、思考、判断、表現力等を育てていく工夫も行っていきたい。

外部指導者と連携して相撲の楽しさや喜びを味わわせ、安全に配慮して取り組んだ授業の実践例

学校名 能登町立能都中学校（石川県）１・２年
全校児童生徒数 １５１名（男子８５名 女子６６名）
種目等 武道（相撲）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 ０７６８（６２）０１６３
学校メールアドレス noto-jsc04@noto.ed.jp

１．実践研究のねらい

知識と技能を有する外部指導者と連携し、相撲授業の充実を図る。

①相撲の基本動作や基本技を習得し、試合を通して楽しさや喜びを味わう。

②相手を尊重する心を持ち、施設や用具の安全を確かめて活動する。

２．実践研究の概要

（１）課題について

①相撲に対する抵抗感を取り除き、楽しさや喜びを味わわせる工夫

②安全に配慮し、基本動作や基本技の習得を図る指導方法の工夫

（２）期待される成果（仮説）について

・相撲の楽しさや喜びを感じ、安全に配慮しながら授業に取り組むことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）学習計画や学習内容について外部指導者と協議し、専門的な立場から指導助言を得る。

（２）押したり引いたり寄ったりといった攻防の楽しさを感じることでできるゲーム的要素を取り入れる。

（３）相撲パンツ、相撲マット・土俵セットの活用。

（４）女性一流競技者による指導の実施。

（５）基本技や受け身等の段階的指導、禁止技や他者尊重の指導など、安全に配慮する。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１ 健康状態や活動場所の安全（土俵セットや相撲マットの周囲にマット等を設置）に配慮する。

２ 頭を打たないことの大切さを意識させるとともに、受け身について段階的な指導を行う。

３ 基本技や受け身等の段階的指導、基本技や他者尊重の指導などにより安全に配慮する。

○成果の意義と今後の課題

１ 相撲パンツの使用や女性一流競技者の指導等により、相撲に対する抵抗感が減り、相撲をやってみたいと答える女子生徒の割合が増加した。また、最後の土俵セットでの団体戦では、意欲的に相撲に取り組む生徒が多く見られた。今年度は、負傷者が１人もいなかったことも大きな成果である。

２ 課題は、①土俵セットが一つしかないため、生徒の運動量が不足しがちであること、②外部指導者との密な話し合いを行い、T1、T2の細かな役割（動き、指示・説明の内容など）を理解しないと、生徒の主体的な活動や学び合い活動につながりにくいことである。

○研究内容

【外部指導者による指導】

正しい基本動作や基本技のポイントを指導



【安全面に配慮した指導】

俵の柔らかい素材への変更や受け身の段階的指導



【楽しさや喜びを感じさせる工夫】

1対1の攻防を楽しむゲーム的要素の導入



【主体的に活動するための指導内容の工夫】

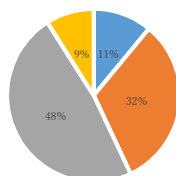
土俵セットでの団体戦を目標とした授業展開



【興味・関心についてのアンケート結果】

1年生49名の相撲への興味・関心を把握

相撲をやりたい（事前）

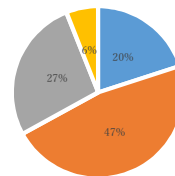


■ とても思う ■ どちらかといえば思う ■ どちらかといえば思わない ■ 全く思わない

肯定的回答

43%→67%

また相撲をやってみよう（事後）



■ とても思う ■ どちらかといえば思う ■ どちらかといえば思わない ■ 全く思わない

【相撲指導の今後に向けて】

安全でより専門的な技能の習得を目指して

今年度、初めて私は相撲の授業を実施した。生徒アンケートや普段の授業の様子などから、楽しい武道の授業が展開できたと感じた。相撲未経験であったが、外部指導者との連携もあり、指導のねらいや技のポイント、授業展開等、多くのことを学ぶことができた。また、マットの設置や取組のルール、受け身の大切さなど、安全面に配慮して指導する際のポイントについても理解を深めることができた。今後は、さらに生徒の意欲を高め、より専門的な技能の定着を図るために、外部指導者との連携を深め、基礎基本を押さえ、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業展開について考察していきたい。

実技指導協力者の派遣を通して、剣道の授業経験の浅い教員の指導力を高める実践例

学校名 磐田市立向陽中学校（静岡県） 2 学年
全校生徒数 195 名 （男子 101 名 女子 94 名）
種目等 武道（剣道・空手道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0538（38）0339
学校メールアドレス koyo-j@city-iwata.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1）授業者が生徒の実態に合わせた段階的な指導と安全で効果的な指導方法を知る。
- （2）実技指導協力者による実技指導や模範演技により、生徒の剣道への興味・関心・意欲を高める。
- （3）空手道の体験授業を行うことで複数の武道に触れ、日本古来の伝統文化の共通点や相違点に気づき、武道への興味・関心を高める。

2 実践研究の概要

（1）課題について

- ①担当教諭が剣道経験および指導経験が浅いこと。
- ②安全に留意した実技指導や場の設定に不安があること。
- ③生徒の剣道への興味・関心・意欲が高くないこと。
- ④男女共習による剣道の効果的指導方法についての知識がないこと。

（2）具体的な取り組み内容・方法、取り組みを進める上での工夫

- ①授業前に、指導内容や安全について実技指導協力者と打ち合わせを行い、共通理解を図る。
- ②担当教諭が T1 として授業を進めるが、実技指導等については T2 として実技指導協力者が全体への指導を行い、担当教諭が生徒個々へのサポートをする。
- ③模範演技など生徒の意欲につながるものを実技指導協力者が行う。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 竹刀や面などの防具を事前に確認した。
- 2 武道館の床の破損箇所や滑りやすいところを調べ、修繕したりモップをかけたりした。
- 3 体格や性差を考えた、ペアやグループを作るようにした。
- 4 常に怪我防止の視点で実技中の生徒の様子を観察し、異常がないかを確認した。
- 5 実技指導協力者が模範を示す中で、怪我につながるポイントを具体的に説明した上で生徒が練習を行うようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 防具の着脱の仕方、礼儀作法、具体的な技術指導や安全指導等、専門家ならではの分かり易い指導をしていただき、参考になった。
- 2 空手道を体験し、剣道との共通点や相違点を学ぶことで、武道への関心が高まった。
- 3 学習の場に専門家がいることで、種目のもつ独特の空気感や緊張感を醸し出したり、目を見張るような模範演技を見せたりすることで、生徒の学習意欲が高まった。
- 4 担当教諭の不足している知識や技術力を専門的な助言や指導により補い、担当教諭の今後の指導に繋がる研修の場となった。
- 5 実技指導協力者から教えていただいた内容を説明することはできるが、示範することは難しいため、担当教諭の技術力の向上と視聴覚機器の活用が今後の課題となる。

研究内容

剣道【段階的な指導の在り方】

刃筋を意識した竹刀の振り方



剣道【礼儀作法についての指導】

防具の着方や礼の仕方についての具体的な指導



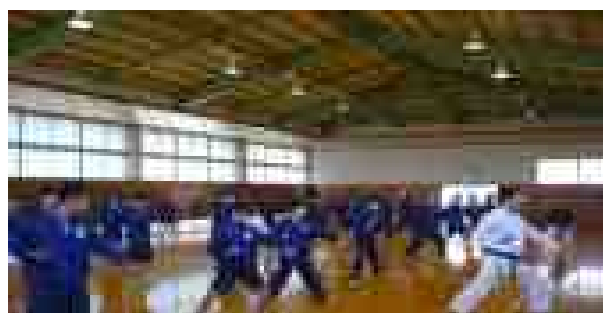
剣道【段階的な指導の在り方指導】

簡易試合



空手道【特色ある武道指導】

空手道の体験授業



【生徒の武道への興味・関心・意欲の向上】

専門的な指導者による実技指導や模範演技の効果

武道館の入り方や座り方、日本が守り続けてきた武道として大切にしている歴史、精神等を学ぶことから学習がスタートした。担当教諭が武道に関わる大まかな内容を押さえ、実技指導協力者が剣道に関わる内容を指導するように、役割を明確にして授業に臨んだ。実技指導の場面では、担当教諭が集団全体の雰囲気を作り、学習目標を決め、実技指導協力者が専門的な指導の助言、示範を行った。このことにより、生徒は本物の武道・剣道の世界に触れ、その良さを味わうことができたと思う。専門家から学ぶことでその種目のもつ独特の世界観や長年その種目に携わってきた者にしか醸し出すことのできない空気感や緊張感を感じることができた。実技指導協力者の技に感嘆の声を上げ、自分たちもその技に挑んでいく姿が見られた。本物に触れたことで、生徒たちの心が震え、意欲化に繋がり、前向きに学習に向き合う生徒の姿を見ることができた。本物に触れ、感じることの価値を大いに感じさせられる時間であった。

【専門家から学ぶ空手道の授業】

授業で扱われることが多い柔道、剣道に比べ、空手道は実際に体験する機会はほとんどない。1時間ではあったが、空手道の歴史や武道共通の礼儀作法などを専門家から学ぶことができた。複数の武道を体験することで、日本古来の伝統文化や武道に対する興味・関心を高める貴重な時間となった。

地域の指導者を活用した安全で楽しい武道領域（空手道）の授業づくりの実践例

学校名 田川市立中央中学校（福岡県） 全学年

全校児童生徒数 76名（男子36名 女子40名）

種目等 武道（空手道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0947（44）2013

学校メールアドレス chuo-j@city.tagawa.fukuoka.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 安全性を重視した武道の授業づくり
- (2) 礼法の重要性や相手を尊重し、協力して取り組む授業づくり

2. 実践研究の概要

- (1) 課題について
 - ・武道の学習に意欲を示さない生徒が多い。
- (2) 期待される成果（仮説）について
 - ・空手道の学習において、専門的な指導ができる外部指導者を活用し、「形」の基本動作をグループで競い合う活動を行えば、生徒は仲間と関わりながら空手道の特性を味わうことができるので、空手道の学習に意欲的に取り組むようになるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 〈学習 1〉空手道の歴史や特性・礼儀作法について知る。
 - ① 事前に資料を作成し、学習カードと併用してクイズ等を用いて興味・関心を高める。
 - ② 「礼」に始まり「礼」に終わることを基本として、相手を尊重する気持ちや練習場所などに対する感謝の気持ちなどを身に付ける。
- (2) 〈学習 2〉基本動作を身に付ける。
 - ① 基本となる受け技・攻撃技の基本動作を身に付ける（外部指導者の動作に合わせて）。
- (3) 〈学習 3〉基本形 1 を身に付ける。
 - ① 身に付けた技能を用いて、基本形 1 に取り組む（外部指導者の動作に合わせて）。
 - ② 段階を追って実践的な動きを取り入れる。
 - ③ グループで動きを合わせた基本形 1
- (4) 〈学習 4〉試合（学習のまとめ）
 - ① 団体形の試合を通して、空手道の楽しさをチームで味わう。
 - ② 審判（判定）を行うことで、よりよい動きのポイントの理解を深める。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 空手道では、殴る、蹴るといった組み手とは逆に、身体接触を一切しない「形」という基本動作での技の競い合いを取り入れ、決められた形の動き（一連の動作）をグループで実践することを目的とする。
2. 空手道に必要な動きに合わせ、十分なストレッチを行う。
3. 相手を尊重して試合や練習ができるように意識させる。
4. グループのメンバー全員に何らかの役割を与える。
5. 集団、グループ、個での活動を段階的に取り入れる。

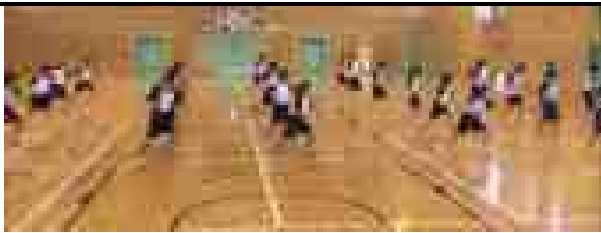
○成果の意義と今後の課題

1. 安全性を重視した武道の授業づくり

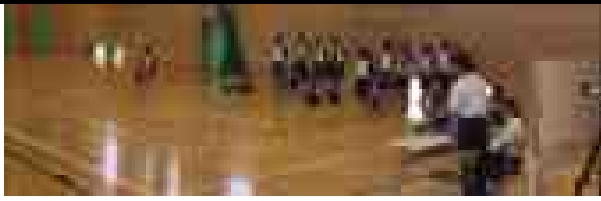
- 一連の技（基本形）の基本動作を中心にすることで、身体接触もなく安全に活動することができた。
 - 道具などを使うこともなく十分なスペースで行うことができ、場の工夫等での安全性も効率よく行えた。
 - 人数が多くなると、場の工夫等の配慮が必要になる。
 - 授業自体は安全に行うことができたが、教員の空手道に対する知識、技能不足（研修会の実施）
- ### 2. 礼法の重要性や相手を尊重し、協力して取り組む授業づくり
- 礼法を行うことで授業に緊張感を持たせて臨むことができた。
 - グループでの教え合い学習が浸透し、対話的で深い学びに結びつけることができた。
 - 仲間との関わりが高まり、楽しく活動することができた。
 - 振り返りが個人だけになってしまい、グループとしての振り返りができなかった。

○成研究内容

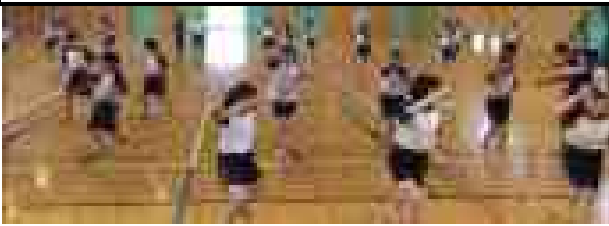
【全員での基本形の練習】
指導者の動きに合わせて同じ動作をくり返し行う



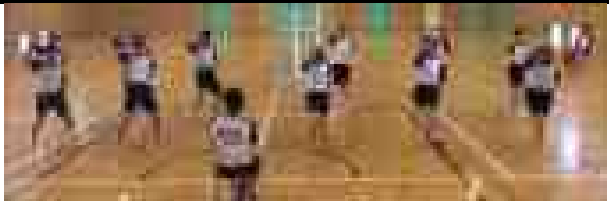
【中央中空手道大会】
生徒審判でのグループ対抗基本形の試合①



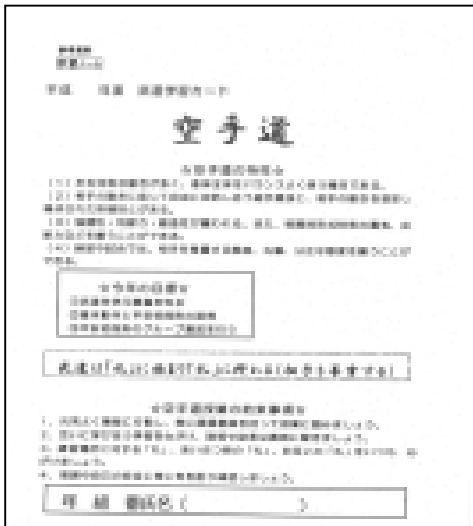
【グループでの基本形の練習】
グループでの動作の確認や教え合い学習



【中央中空手道大会】
生徒審判でのグループ対抗基本形の試合②



【武道（空手道）学習カード表】
空手道の特性、目標、授業のきまりについて



【武道（空手道）学習カード表】
本時の内容、成果・反省、自己評価について



【生徒の感想】

今回の空手道の授業で分かったことがいろいろあるけど、特に一番大事だなと思ったことは、礼儀です。礼儀はこれからいろんなところで使うと思うので、今回習ったことを忘れずにこれからの学校生活に生かしていきたいです。2020年東京オリンピックに空手道が種目に選ばれたので、それを見たときには「あれしたな」と思い返しながら見たいと思います。

【学校の取組の方向性、内容】

本年度より、本校では外部指導者（本校卒業生）の協力の下、空手道の授業に取り組んだ。本年度は全校生徒が同じ基本形を習得しそれぞれで成果の発表（試合）をすることができた。来年、再来年と少しずつ難しい形にチャレンジしていき、体育会での演舞発表などにつなげ成果を披露していきたいと考えている。

また、外部指導者を中心とした特性や礼法、そして実技・技能の向上を図る体育科の研修会等を実施していきたいと考えている。特に礼法は日常生活において大切な部分でもあり、日頃からの積み重ねの中で礼儀やあいさつ、感謝の気持ちなど生徒会や部活動生を中心とした取り組みにつなげるようにしていきたい。

地域の外部指導者と保健体育担当教員との連携による効果的な指導の在り方

学校名 松山市立北条南中学校（愛媛県）1・2年
全校生徒数 406名（男子192名 女子214名）
種目等 武道（なぎなた）
（本事例に係る問い合わせ先）
電話番号 089（994）0230
学校メールアドレス hojs-jof@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者との連携によるなぎなたの効果的な指導の在り方を探る。
- (2) 安全に留意した指導の在り方を探る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ・高い専門性を備えた地域人材を外部指導者として活用し、なぎなたの指導を充実させる。
- ・生徒の実態に応じた指導計画と学習形態を工夫する。

(2) 期待される成果（仮説）について

専門的な知識や技能を示範演技で示していただいたり、分かりやすい言葉で教えていただいたりすることで、1年生は基礎技能や演技競技の仕方を、2年生は防具を付けての攻防や試合競技の仕方を正しく正確に習得することができるであろう。また、外部指導者の指導を受けることで、武道の考え方や礼儀作法・美しい姿勢などについての理解がより深まるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 学年に応じた指導計画・学習形態の工夫について

- ① 1年生は、なぎなたの扱い方や、個人技から対人技までの基礎的な技能を繰り返し練習し、演技競技を行うことを目指した。
- ② 2年生は、1年生で身に付けた技能を生かし、防具を付けた攻防の後、試合競技まで行うことを目指した。

(2) 外部指導者と保健体育科担当教員の役割を明確にした個に応じた指導について

- ① 専門的な内容については外部指導者がT1となって指導した。
- ② 他の外部指導者と保健体育科担当教員が、それぞれT2・T3となって、生徒の技能の程度に応じて個別に適切な指導や助言を行った。

○児童生徒の安全を確保するために配慮（工夫）したこと

- 1 授業者が事前の健康観察や準備運動を行い、その日の生徒の健康状態の把握をした。
- 2 1講座40名程度で構成し、体育館全面を使用して授業を行い、十分な活動スペースを確保した。
- 3 道具の一時保管場所を設置し、安全に管理することができるようにした。
- 4 道具の安全な取り扱いの指導を行った。周囲の安全を確認しながらなぎなたを取り扱うように、指導の徹底を図った。
- 5 生徒の技能レベルに合わせた段階的な指導を行った。1年生は、初めてなぎなたを扱う生徒がほとんどだったため、なぎなたの持ち方や運び方、構え方といった基本の指導から行った。2年生は防具も扱うため、正確な着脱の仕方を繰り返し練習させた。すね当てや面が外れないように、紐の結び方を徹底した。練習や試合中に外れた場合には、すぐに中断して結ばせるようにした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 複数の外部指導者と連携して指導を行い、大変充実した授業を展開することができた。今年度は、短い指導時間ではあったが、礼儀作法や美しい姿勢についても十分に学習させることができた。
- 2 正しい道具の扱い方を身に付けさせ、技能レベルに合った学習を計画することで、安全に学習を進めることができた。今後も、道具のメンテナンスを確実にを行い、安全に留意して指導したい。

○ 研究内容

【防具の装着の確認】

防具が外れた場合は練習を中止させ、正しく装着させた。



【防具の装着】

素早く正しく装着させ、安全に活動することができた。



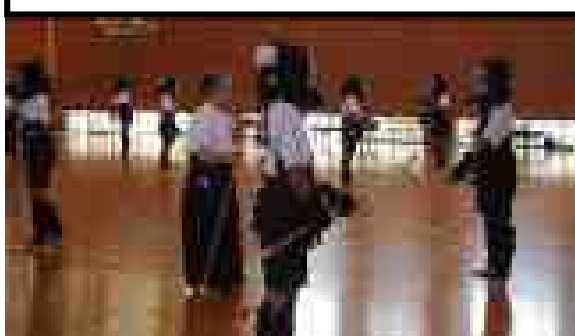
【安全に学習するための場の設定】

縦・横の幅を十分にとって、試合形式の攻防を行った。



【外部指導者の個別指導】

適切な指導・助言により、意欲や技能が向上した。



【アンケート調査結果】

2年生女子（70名）を対象にアンケート調査を行った。

	質 問	はい (%)	いいえ (%)
授業前	なぎなたの学習を楽しみにしていた。	80	20
授業後	なぎなたの学習は楽しかった。	85	15
	なぎなたの学習で楽しかったのは、どんな学習ですか。 (複数回答可)		
	試合形式で打ち合う学習	38 人	
	しかけと応じでの打ち返し、6本練習	38 人	
	面・すねを打つ基礎的な練習	25 人	
	なぎなたを持ち、移動する足さばきの練習	7 人	
	防具の着脱	2 人	

授業前から80%の生徒が初めて行うなぎなたの授業を楽しみにしていた。

授業後、「楽しかった」と回答した生徒は85%に増加しており、充実した学習ができたと感じていることが分かる。

授業の感想

- 初めて防具を付けて練習したので、楽しかったです。試合形式では、たくさん打ち合ったのでしんどかったけれど、楽しくてもう一回したいです。
- なぎなたの授業をして、前より声が出るようになったのでうれしかったです。

【今後の取組の方向性】

地域性を生かしたなぎなたの指導

二人の外部指導者に指導していただくことにより、大変充実した授業を行うことができた。1年生は、初めてなぎなたの学習に取り組んだが、意欲や技能の向上に目覚ましい効果があった。一方、2年生は、防具を付けることでより積極的に打ち合いができた。中には、小学生の頃から外部指導の先生に指導を受けてきている生徒もおり、中学校でも指導をしていただけたため、より一層意欲的に取り組んでいた。他の生徒の前で手本を見せたり、全校生徒の前でステージ発表をしたりする等、自信につながったものと思われる。このように、なぎなたの盛んな地域性を生かして、さらに学習を活性化させていきたい。

聴覚特別支援学校における
武道の実践例

学校名 県立静岡聴覚特別支援学校中学部（静岡県）2、3年

全校生徒数 8名（男子3名 女子5名）

種目等 武道（弓道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 054（283）6441

学校メールアドレス shizuoka-sd@pref.shizuoka.jp

1 実践研究のねらい

- （1）弓道の実技指導協力者から技の説明や技能ポイント学び、実技の指導において生徒の実態に合わせた段階的指導方法を研究する。

2 実践研究の概要

（1）課題について

担当教師に指導経験が浅いことから、個々の生徒の技の上達段階に合わせた効果的な指導に課題がある。

生徒には聞こえにくさがあるため、授業では、教員が授業をすすめ、基本動作を行った後、実技協力者に気づいた点を指導していただくときに、通訳が必要となる。

（2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点

- ① 授業前に、本時の指導内容について実技指導協力者と打合せを行い、指導ポイントについて確認をする。
- ② 的前では、実技指導協力者2名の指導の基、弓を射る。入場や歩き方、ゴム弓、すり足などは本校教員も指導に入る。
- ③ 拡大コピーなど視覚情報を活用する。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 体育館の出入り場所を制限するなど安全面に注意した配置にした。
- 2 実技指導協力者に生徒の正面からゆっくり話をするようお願いしたり教員が通訳したりした。
- 3 動線を設定し、弓や矢を持つての移動の際に接触しないように配置した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 技の説明や示範については、ポイントを押さえてわかりやすく専門家ならではのものがあり、大いに参考になった。今後の指導に生かせると思われる。
- 2 実技指導者の模範の射を見ることができ、経験のない教員もイメージを持つことができ指導に役立った。転入生徒にも視覚的効果があった。
- 3 弓道を継続して行っていることにより安全面の確認はされている。校内の指導者が変わった場合にも引継ぎされていくようにしたい。

○ 研究内容

【段階的な指導】

生徒によるゴム弓練習



【段階的な指導】

実技指導協力者による個別指導



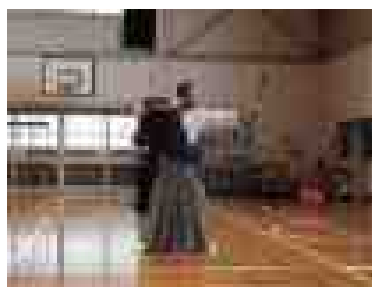
【安全に留意した弓具の保管】

鍵のかかる資料室に矢を保管 出入口の固定



【経験の浅い教員と実技指導者との指導】

実技指導協力者による模範演技



【楽しく意欲的に取り組む生徒】

実技指導員との武道実施による生徒の変化

- ・弓を引くときにしっかり腕を伸ばすことが分かりました。腕を伸ばして射ることでの的の真ん中に当てることができてよかったです。(2年男子)
- ・初めての弓道で、歩き方や礼について学ぶことができました。来年にも活かしたいです。(2年男子)
- ・射法八節では慌てずに、1つ1つ丁寧にすることが大切だと学びました。弓を射ることはなかなかできない経験なので、良い経験になりました。(3年女子)

【授業を継続して行うことへの】

経験のない種目の指導について

- ・公立学校のため、教員の異動はあるが、授業計画や掲示物など引継ぎできるものを確実に残す。
- ・複数の教員で担当し、来年度全員が経験のない状態にはしない。また、実技指導員との連携をはかる。
- ・弓具寄贈校として、弓道連盟とも連携をとる。

新学習指導要領に則ったダンス指導の充実に向けて、地域の中学校教員が連携して授業改善に取り組んだ事例

学校名 盛岡市立下小路中学校（岩手県）2年

全校生徒数 517名（男子256名 女子261名）

種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 019（623）7359

学校メールアドレス e9040@city.morioka.iwate.jp

1 実践研究のねらい

- （1）保健体育授業に対する生徒の意識や中学校教員のニーズを踏まえ、課題となっているダンス領域の授業の在り方について研究を行う。
- （2）管内中学校合同の授業改善研修会の開催等により、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイントを明らかにし、保健体育授業における教員の指導力向上を図る。

2 実践研究の概要

- （1）地域の中学校教員3名による支援委員会を設置し、授業構想等について協議を行った。
- （2）地域の全中学校から1名以上の参加を得て授業改善研修会（講義・演習、公開授業、公開授業についての全体協議、中央講師による講義・実技研修等）を実施した。
- （3）授業記録の分析等により、授業改善のポイントを明らかにした。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 実践校支援委員会の設置

構成メンバーは、地域の中学校教員3名（実践校の授業者含む）、指導主事2名に加え、地域の小学校教員（授業力向上アドバイザー）1名の6名で構成し、全3回の実践校支援委員会を開催した。支援委員による授業検討を通して、小中の接続を考慮しながら中学校の授業づくりにおいて大切にしたいことを明確にし、モデル授業に反映させた。

2 授業改善研修会の実施〔平成30年10月23日（火）実施 管内中学校教員49名〕

（1）授業で大切にしたいことの共有

「動きながら考えることの重視」「生徒が見通しをもつための手立て」「指導者も一緒に踊り、体の動きで生徒を認めること」「生徒の興味を引き出す選曲」「指導者から生徒への肯定的な声かけ」

（2）授業参観の視点及び検証する手立ての共有

ア 楽しさを実感するための手立て → 参観者による観察、授業場面の観察、全体協議

イ 指導者のかかわり → 授業場面の観察、教師の相互作用行動の観察

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 生徒の健康状態について事前に把握し、授業中も常に配慮しながら指導に当たった。
- 2 学習カードに指導計画や学習内容を記載し、安心して学習に取り組める環境を整えた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 実践校支援委員会との連携による授業づくりや授業改善研修の実施は、ダンス指導の経験が少ない教員や不安をもっている教員にとって大変有意義であった。
- 2 授業で大切にしたいことや授業参観の視点及び検証の手立てを地域の中学校教員で共通理解できたことは大きな成果だった。生徒にダンスの楽しさを実感させる指導の在り方についてはさらに検討する必要がある。

○ 研究内容

【ダンスウォームアップ】

オリジナルのダンスで体と心を温める



【指導者の肯定的なかかわり】

温かい声かけにより生徒の可能性を伸ばす



【指導者と一緒に】

体の動きで生徒を認める



【見通しをもつための手立て】

授業の流れや内容を見える化する



【授業実践を通じて検証】

客観的に授業を振り返り検証することで、授業改善の方向性を検討

【体育授業場面の観察結果】

学習指導場面 (I)	認知学習場面 (A1)	運動学習場面 (A2)	マネジメント (M)
10分 (20%)	9分 (18%)	27分 (54%)	4分 (8%)

【教師の相互作用行動の観察結果】 発問…34回 フィードバック…107回 励まし…53回 合計 194回

【観察者による体育授業観察結果 (5段階評価)】

教師の相互作用…4.93 ポイント 学習環境…4.60 ポイント 意欲的な学習…4.13 ポイント 授業の勢い…4.27 ポイント
効果的な学習…4.00 ポイント 総合評価…4.48 ポイント

【研修会参加者アンケートによる評価結果 (5段階評価)】

講義・演習 …4.94 ポイント 提案授業 …4.91 ポイント 全体協議 …4.77 ポイント 講義・実技…5.00 ポイント

【効果的な保健体育授業づくりに向けて】

実践から明らかになった授業改善のポイントを各校で共有

- ・ 生徒にとって魅力ある単元を構成し、見通しを持たせながら授業を展開していくこと。
- ・ 運動に対する多様な見方や意見を交流するための学習形態として、男女共習が効果的であること。
- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（実技・質問紙）から生徒の実態を的確に捉え、保健体育授業を中核としながら運動実施時間の少ない生徒へのアプローチを検討していくこと。

地域の指導者との連携で技術指導を充実させた実践

学校名 新城市立鳳来中学校（愛知県）3年

全校児童生徒数 216名（男子117名 女子99名）

種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0536（32）0012

学校メールアドレス horai-jh@city.shinshiro.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- （1）すぐれた技術をもつ指導者による適切な技術指導によって、生徒の技能を向上させる。
- （2）地域の指導者と協力して指導することによって、教員の指導技術の向上を図る。

2. 実践研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

授業を実施するに当たり、事前に授業の単元構想等について地域の指導者と具体的に打ち合わせを行うことで共通理解を深め、授業展開に向けて準備をした。

- （2）地域の指導者による具体的な指導内容について

ア ダンスの動きに必要な準備運動（ストレッチング・身体の可動範囲を広げる体操・ウォーミングアップ等）の指導。

イ ヒップホップのリズムのとらえ方及び基本技術（リズム感や特徴のとらえ方・体の動かし方やステップ等）の指導。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫

- （1）指導体制

ア 地域の指導者への依頼・連絡・調整については教頭・教務が担当し、直接的な指導に関しては地域の指導者と担当教員で連携・確認をとりながら指導に当たった。

イ 保健体育科教員はT T（ティームティーチング）を行いながら研究を重ねた。

- （2）地域の指導者と保健体育科教員との連携

教員主導で取り組むべきこと、地域の指導者に任せる部分、教員と地域の指導者が協働して取り組むべきことの区別を明確にした。生徒管理、授業規律の遵守、学習内容の確認や生徒への指示は教員が行うものとし、実技指導に関する具体的な部分については地域の指導者が行い、個別練習や班別練習では必要に応じて双方が随時、指導・助言を行うものとした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. ダンスに適した準備運動を行った。（力のオンとオフでしなやかに動くリズムに乗って弾むストレッチング）
2. けがの事例を紹介し、踊る際の音響器具の置き方や小道具の扱い方などに留意させ、安全に取り組めるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1. 専門的な知識や技能をもつ地域の指導者による指導により、生徒に興味・関心をもたせ、リズムダンスの醍醐味を味わわせることができた。全体を通して、遠慮がちでうまく授業に参加できない生徒に対してアドバイスをすることで、最後にはほぼ全員が積極的に活動できるようになった。
2. より専門性のある講師を導入することによって、これからの授業に向けて教員が指導技術や指導方法を身に付ける研修の場として成果があった。
3. ダンス講師から与えられた動きをコピーすることが多かった。曲調から自ら動きをイメージしてオリジナルのダンスができるとよい。取り入れたい動きを講師と相談してダンスを創っていきたい。

○研究内容

【地域の指導者による技術指導】

ヒップホップの技術指導を受ける生徒



【創作活動】

助言を受けながらダンスを創る生徒



【グループ練習】

発表に向け動きづくりを進める生徒



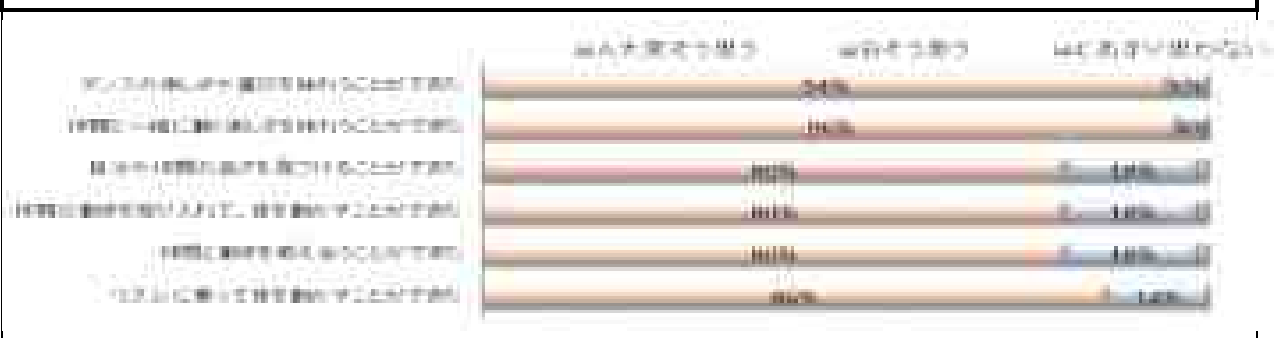
【舞台発表】

鳳祭でのステージパフォーマンス



【ダンスの授業に対する生徒へのアンケート結果】

実施学年 3年74名のアンケート結果



【より専門性のある講師を導入】

教員が指導技術や指導方法を身に付ける研修の場

本校では、体育の授業で身に付けたダンスの技術を文化祭の中で発表している。ダンスの発表には、地域の方や保護者も多く観に来られ、関心の高さを感じる。今後も生徒の技能向上とともに地域の期待に応えていきたい。そのために、より専門性のある講師を導入することによって、教員が指導技術や指導方法をさらに身に付けていく必要がある。授業後の生徒アンケートから「みんなと一緒に踊って楽しかった」という感想が多くあった。どんな動きも肯定的に受け止め、生徒を引き付ける指導法は、体育教員のみならず他の教員にも参考となる。

地域の指導者を活用したダンス授業の実践例

学校名 熊野市立有馬中学校（三重県）全学年
全校児童生徒数 171 名（男子 86 名 女子 85 名）
種目等 ダンス
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0597（89）2001
学校メールアドレス kmk702@kumano-city.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて踊る。
- (2) ダンスの交流を通して仲間とのコミュニケーションを図り、仲間のよさを認め合う。
- (3) 教員の指導力の向上を図る。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

イメージをとらえて自己を表現することの楽しさや喜びを味わうことができるように努める。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ・地域の指導者の指導により、生徒はダンスを通じて自己を表現できるようになる。
- ・地域の指導者の指導の仕方を学んだり、生徒と一緒に学んだりすることにより、教員は、指導のポイント等を理解し、指導力の向上が図られる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 速さを調節して、音楽に合わせた準備運動を行う。
- (2) 少人数のグループに分かれてダンスをして、お互いの良いところ、改善点を確認し合った。
- (3) 学年に応じた指導内容
 - ① 1・2 年生は、基本のステップ・リズムから学び、楽しく踊る楽しさを味わう。
 - ② 3 年生は、グループで踊りを楽しむだけでなく、これまで学習した知識や技能を活用して、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができるようにする。
- (4) 各グループのダンス発表会を行う。見せ合うことでお互いの動きを観察し合った。
- (5) 地域の指導者の授業が終わったあとも、体育祭に向け教員が指導を継続して取組を行った。体育祭では授業で学んだことを活かして、全学年縦割りの群ごとで創作ダンスを披露することとし、グループに分かれ、3 年生がリーダーになって他の生徒に教えていく活動を取り入れた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 激しい動きがあるため、入念に準備運動を行った。
- 2 熱中症の予防対策として、水分補給等の時間を確保した。
- 3 雨天の場合、床がすべりやすい状態になるため、始める前に床のすべり具合の点検を行った。

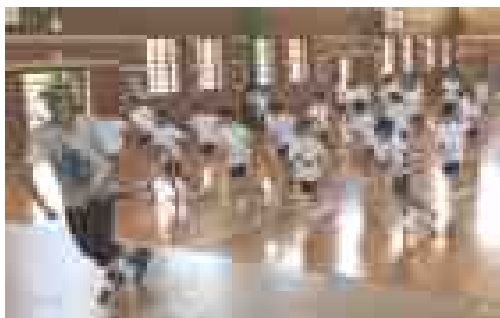
○成果の意義と今後の課題

- 1 専門的な指導者から基本指導をしていただくことで、より一層ダンスの基本が身に付きやすく、発展的な内容にもつながりやすい。
- 2 体育祭では群による創作ダンスを発表することを「めあて」としている。生徒はダンスを創作していく上での方法等も学び、より自主的な活動が発展的な内容になっていくことを期待している。
- 3 体育祭の発表まで、創作ダンスの構成を助言したり、集団演技の動きを指導したりすることで、教員の指導力の向上に繋がっていくことを期待している。

○研究内容

【先生にあわせて】

地域の指導者の動きに合わせておどる。



【お互いにチェック】

良かったところや改善点をペアで話し合う。



【より完成形に】

細かい動きをていねいに指導する。



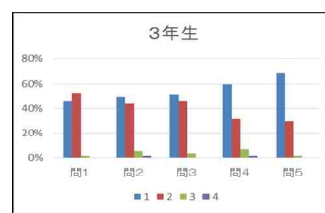
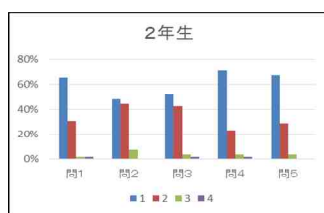
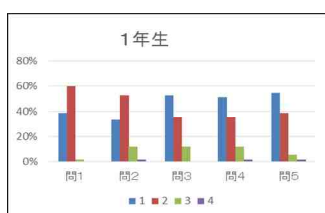
【いざ、本番、体育祭】

全学年縦割りの群ごとで、創作ダンスを披露する



【ダンス授業のアンケート調査結果】

ダンスの授業で学んだことをもとに、創作ダンスを考え体育祭で発表。そして、アンケートを行った。



外部指導者の授業を受けて、問 1:技能は高まったか、問 2:意欲は高まったか、問 3:知識は高まったか、問 4:楽しさを味わったか、問 5:満足しているか、の問に対するアンケート結果である。ほとんどの生徒が、すべての問において高まった、どちらかといえば高まったと回答し、満足していることがわかる。そのなかでも、昨年度も外部指導者の授業を受けた2・3年生のほうが技能・意欲が高く、満足しているということがわかる。

【ダンスで、みつめあい、つながりあい、磨きあう】

ダンスの活動から、「みつめあい、つながりあい、磨きあう、そして輝く学校」を創っていく。

「ダンス」は みんなで自由に踊る楽しさや喜びを味わい、自己を表現することができるものである。昨年度に引き続いての地域の指導者の指導により、より自信を持って自己を表現することにつなげることができた。本取組のあとのダンスの授業は本校教員のみで指導しているが、地域の指導者の指導方法を参考とし、指導力の向上に繋がっている。今後も、ダンスの交流を通して仲間とのコミュニケーションを図り、仲間のよさを認め合う活動にしていきたい。生徒は、授業でのダンス発表会や体育祭での群の発表に、一人ひとりが責任を持って自主的に取り組むことで、仲間との人間関係がよくなり、地域の方々からの信頼を得ることになるはずである。

天理大学創作ダンス部と連携し、生徒の興味・関心を高めた実践例

学校名 五條市立五條東中学校（奈良県）全学年
全校児童生徒数 197名（男子97名 女子100名）
種目等 ダンス

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0747（22）2814

学校メールアドレス touchu@gojo-nar.ed.jp

1 実践研究のねらい

- （1）専門性の高い指導者を活用した効果的なダンス指導の在り方を探る。
- （2）専門の指導者と連携することにより、教員の指導力を向上させ、授業内容の充実を図る。

2 実践研究の概要

ダンス指導の工夫

- （1）授業は、単元の導入から大学生の支援のもとで、基本ステップの体験、隊形移動や表現方法の紹介、ダンスの創作、体育大会での全校ダンスという流れで行い、その後の授業展開に見通しをもたせた。
- （2）恥ずかしさを感じさせないように、表現することよりも比較的簡単なステップをスポーツ的に踊る指導をした。
- （3）本年度は、「絆」をテーマにして、創作の共通理解がしやすいように各学級で仲間との絆を表現するダンスを取り入れた。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1）大学生の助言のもとに構成した振付を習得させ、生徒の興味・関心を高める。
- （2）体育大会での全校ダンスの中に、各学級が順番にそれぞれ披露する場面をつくることで各学級が創作し競い合い、より良い作品となるよう活動力を高めた。

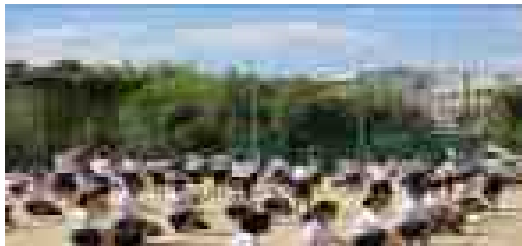
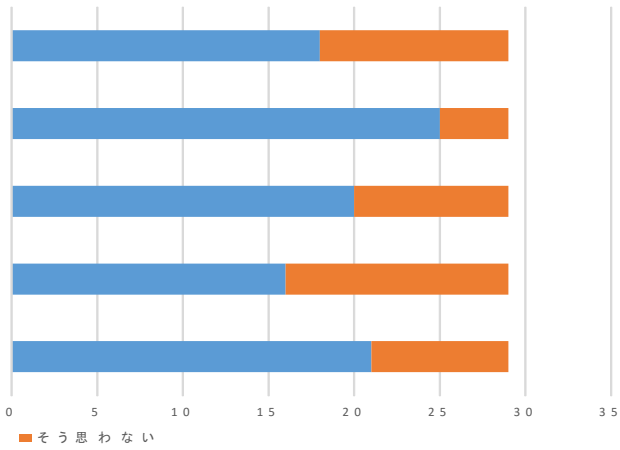
○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 毎時間、入念な準備運動を取り入れ、その時の体調の様子について気付かせ、怪我の予防を行った。また、気温が高い時期に行ったため、こまめに水分補給の時間を設けた。
- 2 年間指導計画作成時、他領域との重なりに留意し、体育館や運動場を全面使用して授業を行うことができるようにしたことで、活動のスペースを十分に確保し、安全で効率よく実施できた。

○成果の意義と今後の課題

- 1 経験が豊富で、高い専門的知識や技能を有する現役大学ダンス部の一つ一つの動きや、生徒に対する言葉かけなど、教員が指導技術や指導方法を身に付ける絶好の機会となった。
- 2 授業でのダンス、体育大会の全校ダンスという流れで、体育授業のみならず学校行事（特別活動）と関連した取組ができ、生徒の活動意欲の高揚を図ることができた。
- 3 ICT機器を活用し、自分たちのダンスを撮影して客観的に見ることで、動きの大きさやリズムなど改善に取り組むことができた。

○研究内容

【オリエンテーション】 構成したダンスの説明 	【体育館にて学年練習】 学年で踊るダンスの練習 																		
【全校生徒で練習】 運動場にて全校生徒で本番と同様に練習 	【発表】 体育大会にてダンス発表 																		
【ダンスの授業に対する生徒へのアンケート結果】 説明文：初めてダンスを行った2年B組を対象にアンケートを行った。																			
1. 授業前よりダンスに興味を持った。 2. 学級で協力してダンスをそうすることができた。 3. ダンスの技能を高めるために進んで行動した。 4. リズムにのったダンスをすることができた。 5. ダンスの楽しさを味わうことができた。	 <table><thead><tr><th>項目</th><th>そう思う</th><th>そう思わない</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 授業前よりダンスに興味を持った。</td><td>18</td><td>12</td></tr><tr><td>2. 学級で協力してダンスをそうすることができた。</td><td>25</td><td>4</td></tr><tr><td>3. ダンスの技能を高めるために進んで行動した。</td><td>20</td><td>9</td></tr><tr><td>4. リズムにのったダンスをすることができた。</td><td>16</td><td>13</td></tr><tr><td>5. ダンスの楽しさを味わうことができた。</td><td>21</td><td>8</td></tr></tbody></table>	項目	そう思う	そう思わない	1. 授業前よりダンスに興味を持った。	18	12	2. 学級で協力してダンスをそうすることができた。	25	4	3. ダンスの技能を高めるために進んで行動した。	20	9	4. リズムにのったダンスをすることができた。	16	13	5. ダンスの楽しさを味わうことができた。	21	8
項目	そう思う	そう思わない																	
1. 授業前よりダンスに興味を持った。	18	12																	
2. 学級で協力してダンスをそうすることができた。	25	4																	
3. ダンスの技能を高めるために進んで行動した。	20	9																	
4. リズムにのったダンスをすることができた。	16	13																	
5. ダンスの楽しさを味わうことができた。	21	8																	
【実践のまとめ】 天理大学創作ダンス部と連携したことにより、より専門的な見本や創作方法、アドバイスをもらったことで生徒は積極的に授業に参加していた。また体育大会での全校ダンスが最終目標となり、各学級がダンスを創作するために意見を出し合い、作品作りに取り組むことができた。しかし学級によって消極的な学級もあり、大学生と担当教員との打ち合わせをさらに密にして指導する必要がある。																			

地域の指導者と連携したダンス（現代的なリズムのダンス）指導の実践例

学校名 須崎市立朝ヶ丘中学校（高知県） 2年

全校児童生徒数 179名（男子92名 女子87名）

種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0889（42）1864

学校メールアドレス asagaoka-j@city.susaki.lg.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 現代的なリズムのダンスの学習を通して、リズムの特徴を捉え、リズムに乗って踊る楽しさや自己を表現する喜びを体験させたい。
- (2) みんなで踊る楽しさや喜びを味わい、仲間とのコミュニケーションを豊かにすることのできる授業づくりを目指す。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

- ・「現代的なリズムのダンス」における指導スキルが不足している。
- ・初めての取組であることから、導入において意欲・関心を高めたい。

(2) 期待される成果（仮説）について

- ・踊る楽しさや喜びを体験でき、専門的な技術を習得することができる。
- ・ダンスを通じて、コミュニケーションが豊かになり、仲間との交流が深まる。
- ・運動の苦手な生徒も仲間と楽しく活動することによって、運動への興味・関心が高まる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 本授業前にはフォークダンス、創作ダンスとして、3年生中心に創作した「南中ソーラン(男子)」、「鳴子踊り(女子)」を体育祭で発表した。1～3年を縦グループに分け、教えあう関係を作り、踊る楽しさ、人前でも自信をもって踊ることを経験させた。体育祭後は現代的なリズムのダンスを講師（以下、授業協力者）に来ていただき行うことを生徒に知らせ、興味・関心を持たせた。
- (2) 男女の人数差が大きく、女子が消極的であるため男女別のグルーピングを行った。女子の場合は、少し雰囲気を変えるために各クラス2名の4名の編成を行い、その中から1名のリーダーを決めた。3回目の授業から準備運動については、2回目の授業で授業協力者に教わった動きや補強運動、日頃の経験から知っている運動を取り入れるなど、グループ内で提案しながら行った。
- (3) DVDを利用しスクリーンに映し出した映像を見本として、説明を付け足しながら進めた。また、ダンスが得意な生徒に手本になってもらったり、教員もともに踊ったりすることによってリラックスしたムードを心がけた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 授業協力者との打ち合わせを行い、安全確保に努める。
2. 生徒の健康状態の把握をし、授業協力者との連絡を行う。
3. 場の設定など安全確保を行う。

○成果の意義と今後の課題

1. 授業協力者の指導が分かりやすく、生徒たちが難しいと感じるポイントを繰り返したり、準備運動や導入でその踊りを入れてくれたりしていたことで、難しいと思っていたダンスが短時間で踊れるようになり、「分かる」「できる」「楽しい」を体感していた。授業協力者の専門的な技能や知識、そして、丁寧でポイントを押さえた指導は、生徒の希望に添うものであった。教員にとっても専門的な指導は参考となり、授業の課題や自分自身の指導的な課題について相談し進めることができるなど非常に勉強になった。
2. 単元全体の半数の派遣であったため、生徒・教員ともに不安であったが、試行錯誤を繰り返しながら取り組んだことはよい経験となった。専門的な講師に支援していただくのも初めてだったが、期待した成果以上のものを感じた。3年次でも次のスキルアップとして取組を継続していきたい。

○研究内容

【授業協力者の指導に盛り上がる】

半信半疑だったのに徐々にリラックスできて盛り上がる。



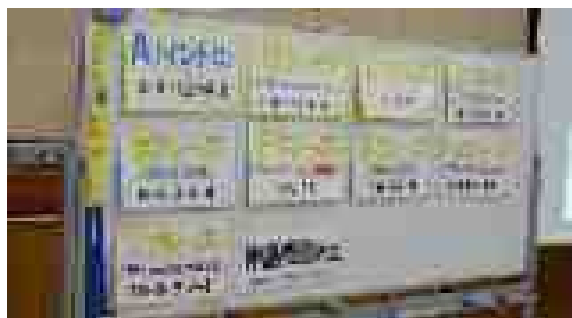
【最後の決めポーズ】

最後までいきつくと達成感からか自然に笑顔がでた。



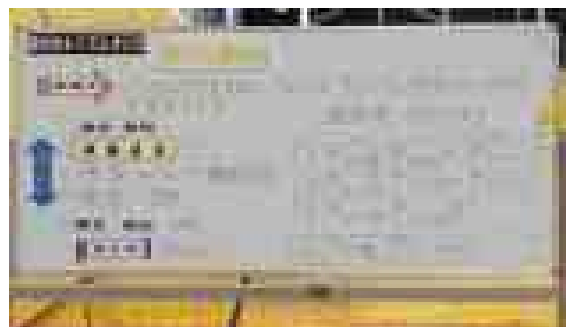
【課題曲「HELLO WORLD」を分析】

ダンスの構成を知り、見通しをもって取り組む。



【発表会】

めあてには前時の「振り返り」の言葉を使った。



【アンケート結果】

	とてもできた		ややできた		あまりできなかった		全くできなかった	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
授業の内容について興味や親し みを持つことができましたか	29	14	16	2	0	0	0	0
授業の内容について技能は高ま りましたか	10	11	23	5	2	0	0	0
授業協力者の先生の指導を受け て、授業は楽しくできましたか	25	12	9	3	1	1	0	0

【生徒の意欲の変化】

「わかる」から「できる」、そして、「できた」から「もっと上手になりたい」に。

2年生は真面目に授業に取り組むが、やや消極的な面があり、「南中ソーラン」、「鳴子踊り」においても、他の学年と同じように意欲があったわけではなかったため若干の不安はあったが、踊れるようになると表情が変わり、笑顔が増え、いろいろなポーズを考えるようになった。分かる、できるということが大事だと思った。教員にとっても専門的な指導は参考となり、授業の課題や自分自身の指導的な課題について相談し進めることができるなど非常に勉強になった。3年次でも次のスキルアップとして取組を継続していきたい。

講師を招き、アルペンスキーにおける児童の技術と教員の指導力を高める実践例

小国町立小国小学校(山形県) 4～6年

全校児童数 336名(男子163名 女子173名)

種目等 アルペンスキー

(本事業に係る問合せ先)

電話番号 0238(62)2018

学校メールアドレス

ogunisho@town.oguni.yamagata.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 小学校の体育授業にあたり、教員が苦手とする領域について、地域スポーツ指導者を派遣し、体育科担当教員の計画に基づき、サブティーチャー(T2)として運動の師範や安全面に配慮した段階的な指導方法の支援を行うことで、体育授業の充実と体育科担当教員の指導力向上を図る。

2 実践研究の概要

(1) 課題について

指導者のスキー経験が少なく、アルペンスキーの知識と技能を継続的に研修していく必要がある。

(2) 期待される成果(仮説)について

アルペンスキーにおける児童の技能向上と、教師の指導技術の向上。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的に取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 本校の実態を踏まえ、ゲストティーチャーを迎えたアルペンスキーの授業を行う。

① 講師の招聘：村上 裕志氏

② 指導日 平成31年1月15日(火) 13:30～15:30 4年生(パラレルターンの指導)

平成31年1月16日(水) 13:30～15:30 5年生(パラレルターンの指導)

平成31年1月22日(火) 13:30～15:30 5年生(パラレルターン、ポール指導)

平成31年1月23日(水) 13:30～15:30 6年生(パラレルターン、ポール指導)

平成31年1月29日(火) 13:30～15:30 5年生(パラレルターン、ポール指導)

平成31年2月21日(木) 13:30～15:30 4年生(パラレルターンの指導)

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

1 ゲレンデの整備

横根スキー場の従業員の方の協力で、圧雪車によりゲレンデを整備していただく。

2 アルペンスキー用具の点検

スキー教室開始前に保護者が点検を行い、授業開始前には、指導者が点検を行う。

○成果の意義と今後の課題

- 1 児童においては、スムーズなスキー操作ができるようになり、スピードにのったパラレルターン及びポールを使った制限滑走が上手にできるようになった。

教員においては、スキー操作の仕方、指導のポイントを明確に知ることができた。今回学んだことを今後の授業の指導実践に生かしていくことが望まれる。

○研究内容

【5年生 ポール内滑走の指導】

一緒に滑りながら、ポール内のコース取りについての指導と、制限されたコースに合わせて滑る指導。



【4年生 緩斜面でのターンの指導】

ストックを持たず、両手を自由に使えるようにして、ボーゲンで方向を変えたあとに、スキーをそろえて滑る指導。



【6年生 急斜面でのターン指導】

斜面に垂直に、外足加重でターンの終わりまで加重してスピードのコントロールをして滑る指導。



【6年生 ポール内滑走の指導】

ポール内を滑走するときは、ポールへまっすぐに向かわず、上方から回り込むように滑る指導。



【参加者の状況及び大会結果】

児童の実態の見取り・大会結果・担当教員感想から

参加児童の状況(実施前)

4年生(7名)

- ・ ブルークボーゲンで曲ることができる。
- ・ 大回りで、滑り降りることができる。
- ・ 前の人について滑ることができる。

5年生(20名)

- ・ ブルークボーゲンで転ばずに滑り降りることができる。
- ・ 中斜度の斜面も大回りのブルークボーゲンで滑ることができる。
- ・ 直滑降でも、スキーを「ハの字」で滑る子が多い。

6年生(10名)

- ・ ポールの経験者は6名。
- ・ 全員、自分のリズムで滑走できる。
- ・ 急斜面は、止まりながら滑る子が多い。

参加児童の状況(実施後)

4年生

- ・ 中斜度の斜面も、止まらずに滑り降りられるようになった。
- ・ ほとんど転ばずに滑られるようになった。

5年生

- ・ 半数くらいの子が、ブルークボーゲンからシュテムターンで滑ることができるようになった。

6年生

- ・ 全員がポールを経験し、ゴールまで転ばずに滑ることができた。
- ・ 急斜面も、パラレルターンで転ばずに滑り降りられるようになった。
- ・ 滑走時のスピードが上がり、安定して滑られるようになった。

担当教員感想

- ・ 斜面に対して垂直になることを意識して滑ることが大切である。
- ・ 外足にしっかり加重し、ターンしていくことで、スキーの特性を生かしてスピードに乗った滑走ができることがわかった。外足に加重する感覚を養うために、スキーを横にして斜面を登る練習も効果的なことがわかった。
- ・ ポールでは、ポールの上方で方向を変え、通り過ぎるときにはターンが終わるくらいになるように滑ることがわかった。

【今後の指導の在り方】

児童の技能向上のための授業実践

- ・ どの学年も、外足にしっかり加重しての滑走をさせていきたい。そのために準備運動として雪の斜面を踏んで登ったり、横滑りするなど、基本姿勢を意識させていく。
- ・ できるだけ長いコースをスピードに乗って滑る練習を行いたい。

小学校の課題が見られる領域（器械運動）に外部指導者を派遣し、授業の充実と教員の資質向上を図った例

学校名 諫早市立西諫早小学校（長崎県） 1年
全校児童数 492名（男子236名 女子256名）
種目等 器械運動
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 095（894）3393
アドレス f-kiba@pref.nagasaki.lg.jp

1. 実践研究のねらい

- （1）県内小学校において、器械運動の指導に対して不安を感じる教諭が多いことから、器械運動の専門的な指導者を派遣し、器械運動の特性を生かした授業を展開することにより、教員の指導力向上を図る。

2. 実践研究の概要

（1）課題について

平成27年度長崎県小学校体育科の指導等に関する調査において、器械・器具を使つての運動遊び及び器械運動領域の指導に対して不安を抱えている教員が多いことが明らかになっている。また、安全面に配慮した段階的な指導についても十分配慮できていないことが予測される。こうした状況下では、児童に授業の楽しさや喜びを味わわせることにつながっていない授業が展開されていることが考えられる。

（2）期待される成果（仮説）について

- ・地域指導者をT2として授業に派遣することにより、専門的な授業がなされ、体育授業の充実を図れるであろう。
- ・外部指導者の活用により、指導に対して不安を感じている教員が具体的な指導方法を学び、実践することで指導に対する不安が軽減し、よりよい授業が展開されるであろう。
- ・専門性を生かした授業展開により、児童の理解が高まり、教員の指導力向上につながるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）優れた指導力を有する地域指導者の協力を得た学習指導の推進

① 外部指導者の確保、連携

学校に派遣する外部指導者に対して事前に研修会を開き、学習指導要領及び同解説についての理解や外部指導者としての授業への協力について研修を深めた。

② 授業における地域指導者と教員の役割の分担

県体操協会から地域指導者を派遣していただいた。これまで計画をもとに、担当教員が単元計画を作成し、外部指導者が修正等のアドバイスをを行った。特に技能の指導内容が発達の段階に応じた指導内容や安全を確保するための配慮等についての助言をいただき、学習計画を立案した。実際の指導においては、担当教員が授業を進め、外部指導者が技能のポイントの例示や運動のコツ、よい動きの紹介等を具体的に行った。

（2）実際の授業において工夫した点等

① 担当教員が器械運動の指導に不安を抱えているため、学習指導要領に沿った内容で児童ができる簡単な技を用い、指導の方法やコツの例示などを行った。

② 地域指導者から児童のよい動きの例を紹介していただくことで、学習活動に即した評価規準の具体的な児童の姿を知ることができ、効果的・効率的な評価へとつながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 担当教諭が指導に対して不安を感じているという実態を受けて、技能面の指導は主に地域指導者が行い、児童の性別や体格の程度に応じた指導内容を工夫し、安全確保をより確かなものとした。
2. 器械・器具の安全点検については、授業前に担当教諭と地域指導者で確認を行い、安全面の確保に努めた。

○成果の意義と今後の課題

1. 優れた指導力を有する地域指導者による授業により、児童が器械運動に対して楽しさや喜びを感じ、体育授業の充実を図ることができた。
2. 外部指導者がいない状況で児童に体育の楽しさを感じさせる授業を実践するためには、引き続き教員の資質向上が不可欠である。

研究内容

【技能指導の様子①】

腕の力を使って全身を支えることを指導



【技能指導の様子②】

段階的な指導で次へつなげる



【技能指導の様子③】

安全面の配慮



【指導内容と成果】

丁寧で細やかな指導の実践

【内容】

- ・跳び箱をまたいだり、またぎこしたり、跳び乗ったりしていろいろな動きに挑戦した。
- ・「次時は、こんなことをするんですよ」の予告で、意欲を高めることができた。
- ・教師にも、技のポイントや練習方法など教えてくれた。

【授業前後の意識調査から】

サポーター派遣の前後に生徒の意識調査を実施し、サポーター派遣の効果について検証した。

（１）体を動かすことは好きですか。

	好き	4	3	2	1	嫌い	総計
事前	68	11	3	1			83
	81.9%	13.3%	3.6%	1.2%			
	95.2%		4.8%				
	好き			嫌い			
事後	65	15	2	1			83
	78.3%	18.1%	2.4%	1.2%			
	96.4%		3.6%				
	好き			嫌い			

（２）体育の授業は楽しいですか。

	楽しい	4	3	2	1	楽しくない	総計
事前	68	13	1	1			83
	81.9%	15.7%	1.2%	1.2%			
	97.6%		2.4%				
	楽しい			楽しくない			
事後	68	13	2	0			83
	81.9%	15.7%	2.4%	0.0%			
	97.6%		2.4%				
	楽しい			楽しくない			

（３）運動のやり方やうまくなる方法を知っていますか。

	知っている	4	3	2	1	知らない	総計
事前	15	29	23	16			83
	18.1%	34.9%	27.7%	19.3%			
	53.0%		47.0%				
	知っている			知らない			
事後	59	14	8	2			83
	71.1%	16.9%	9.6%	2.4%			
	88.0%		12.0%				
	知っている			知らない			

「運動のやり方やうまくなる方法を知っていますか」という質問に対し、「知っている」という回答が、授業後に88.0%に向上している。サポーターのコツやポイントをおさえた指導が効果的に行われたことが分かる。

【教員の感想】

児童の技能の向上と教員の指導力向上につながった。

今回、初めてサポーター派遣事業に応募した。担当の先生との打ち合わせは、夏季休業中だったので、担任全員そろって行うことができてよかった。打ち合わせをしっかりとっていたので、休み時間からマットや跳び箱を素早く準備して時間通りに始めることができた。マット運動や跳び箱運動をするために必要な準備運動や補助の仕方がよく分かり、回を重ねるにつれ、できる児童を増やすことができた。また、子どもたちも、意欲的に練習に取り組むことができた。今後の授業で活用できるヒントをたくさんいただいた。

長距離走の授業を集団化し、場の設定等を工夫することで、生徒の学習意欲の向上を目指した実践例

学校名 高島市立湖西中学校（滋賀県）

全校児童生徒数 304 名 （男子 149 名 女子 155 名）

種目等 陸上競技（長距離走 3 分間セイムゴール走）
（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0740（25）2271

学校メールアドレス kosei-jhs@scl.city.takashima.shiga.jp

1 実践研究のねらい

- （1）長距離走の教材研究を通じた指導力の向上
- （2）長距離走の苦手な生徒が意欲的に取り組める授業展開を考案

2 実践研究の概要

- （1）大学教員を招聘し長距離走の教材研究の実施（3 分間セイムゴール走について）
- （2）学習指導案づくり（授業計画、評価規準、ワークシート、場の設定等の検討）
- （3）研究授業と授業実践の分析・まとめ

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

○大学教員を講師に招聘し、第 1・2 ブロックの体育教師を対象に、指導助言や提供していただいた 3 分間セイムゴール走についての資料やデータを元に、研究協議を重ねた。

① 3 分間セイムゴール走の内容を活用し、走ることが苦手な生徒でも意欲的に取り組めるような場づくりを行った。→スタート位置の場所を個人によって変えるが、ゴールの位置は全員同じにする等。

○他の人と競争するのではなく、個人で目標を設定することで、主体的に取り組ませるようにした。

○グループ活動を主体として授業を展開し、仲間を支え、励まし合いながら取り組むことを意識させた。

○対話する場面を増やし、仲間との対話をきっかけに、個人の意欲を向上させることができる場面を多く設けた。（対話→主体性の向上→目標に向かう姿勢・態度）

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 競技に応じた準備運動やウォームアップを丁寧に実施し、怪我の防止に努めた。
- 2 転倒防止のために、大型デジタイマー、コーン、ホワイトボード等に重りを設置した。
- 3 ビブスを一人一枚着ることで、確実にタイムが計測できる工夫をした。
- 4 熱中症予防のために、水分は活動場所のすぐ近くに置き、いつでも飲めるような状況にした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 3 分間セイムゴール走の授業は、仲間と支え合い、励まし合うことで、授業への関心・意欲が向上した。また、仲間との関わりがきっかけとなり、記録の向上に繋がった生徒も見られた。
- 2 授業内容が複雑で、理解するのに時間がかかった。活動時間が少ないと感じる場面が見られた。
1 時間目の 3 分間走のタイムを計測することの重要性を十分に理解させることができず、正確に測定することができない生徒がいた。

○ 研究内容

【長距離走の集団化～3分間セიმゴール走～】

応援・励ましの様子

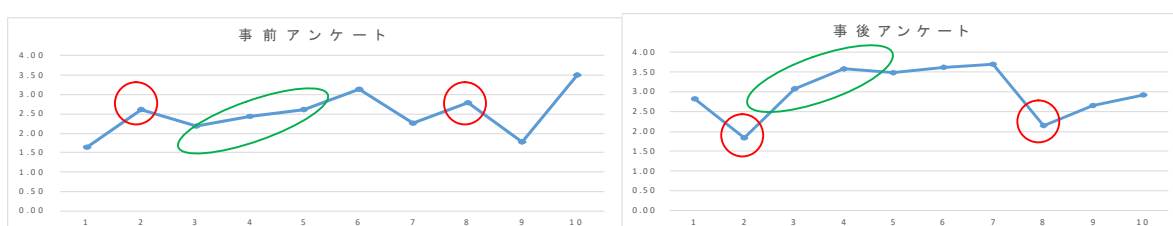


【長距離走の集団化～3分間セიმゴール走～】

全力を出しきった仲間に声をかける様子



【事前・事後のアンケート比較】 毎時間の授業評価の平均値をグラフにしたもの

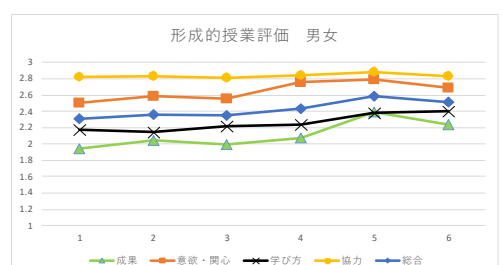


【結果の考察】

まず始めに着目するのは2番『長距離走の授業は、できることなら休みたいという気持ちになる。』と8番『長距離走の授業では、運動の喜びを味わえるのは一部の人に過ぎなかった。』の項目が低くなっている。多くの生徒が走ることに喜びを感じることができ、苦手意識が低下したことが考えられる。

また、1番『私は長距離走が好きだ』の項目の上昇には、3番『長距離走の後は心地よい興奮が残った。』と4番『長距離走の授業で、いろいろな人と一緒に活動することが、私はとても楽しかった。』と5番『長距離走の授業では、精一杯頑張ったという満足感を味わうことができた。』の3つの項目の上昇が関係している。グループで支え合い、アドバイスをし合うことで、一人ひとりの主体性が高まり、達成感を感じる場面が増え、また個人の達成感をグループで共有することで、グループでの満足感や充実感に繋がったと考える。

【形成的授業評価】 毎時間の授業評価の平均値をグラフにしたもの



【結果の考察】

3時間目までは説明の時間が長く活動時間が少なかったのも意欲・関心は低くなったが、4時間目からは要領をつかみ出したので、グラフが向上していったと考えられる。

また、意欲・関心が向上するに伴って、協力が向上し、成果の向上にもつながったのではないかと考える。

課題としては、できるだけ短い時間で生徒に授業内容を把握させることが重要だということがわかった。

【集団の力で意欲的に取り組むことができる長距離走】 グループで協力し支える場面を設けることで、長距離走に対する捉え方が変化した。

長距離走の授業では、『苦手な生徒』や『長距離走への関心・意欲が低い生徒』に着目し、3分間セიმゴール走という教材を活用し、自己の課題、グループの課題を克服できるよう、授業を展開した。グループ活動では、対話をする場面や、役割分担を果たす場面をたくさん設定した。その結果、走る人を励ましたり、アドバイスをかけるなどのサポートをしたりするようになり、走る人だけでなく、グループ全員、クラス全体で授業への意欲が高まっていった。

課題としては、授業内容を生徒が理解することに時間が必要で、生徒が慣れるまでは時間がかかった。単元時間を増やすことで、さらに内容を深めることができたのではないかと感じた。今後の方向性としては、誰もが運動に対して意欲的に取り組みやすい環境づくりを作っていくために、グループ活動を有効的に活用しながら、他の単元等で授業展開を工夫していく必要がある。

外部指導者と連携した授業づくりを通して、教員の授業力向上と児童の走・跳の運動に関する興味、関心、意欲を高めた実践例

学校名 宮崎市立江南小学校（宮崎県） 3年
全校児童生徒数 701 名（男子 352 名 女子 349 名）
種目等 走・跳の運動（小型ハードル走）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0985（53）5005
学校メールアドレス jimukounan-s@mcnet.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 専門的な技能や経験豊かな指導力を有する外部指導者と本校の教員が、児童の実態に合った授業づくりを協議しながら連携して授業実践を行う。
- (2) 走・跳の運動（小型ハードル走）を初めて学習する児童が、運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようになる。

2. 実践研究の概要

(1) 課題について

児童の実態を捉えつつ、専門的な技能や経験豊かな指導力を有する外部指導者と連携を取りながら段階的に指導していくことが課題である。

(2) 期待される成果（仮説）について

本校の教員が専門的な技能や経験豊かな指導力を有する外部指導者と連携し、授業を展開することで、児童が陸上運動に関心を高め、意欲的に授業に取り組むことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 授業の打ち合わせの充実

外部指導者と体育主任が、4月の段階で、授業を実施する学年の発達段階や実態等について入念に打ち合わせを行った。ティームティーチングによる学習形態で指導を行うが、進め方のT1、T2の役割を明確にしながら、授業前、授業後の協議を行った。

(2) 指導内容の精選と指導の焦点化

3年生の発達段階に応じた指導内容とするために、ハードルの越え方や足の運び方等、ハードルの基本について毎時間取り組んだ。また、リズムカルな助走や踏切りについても指導を行い、「ハードルの基本」「リズムカルな助走」「踏切り」に絞って授業を構成した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. ハードルを越える際、転倒防止のため、足抜きの方法を丁寧に指導した。
2. 場の作り方で、1コースずつ空けてハードルを並べた。隣で走る児童との距離を離れたことで、隣を気にせずに走らせることができた。

○成果の意義と今後の課題

《成果》楽しくかつ段階的に技能を身に付けていくことで、児童の実態を見極め、児童の実態に合った指導を進めていくことができ、児童の意欲の向上と教員の授業力向上につながった。

《課題》小型ハードル走の学習を各学級3時間程度取り組み、児童の意欲は高まったが、外部指導者と学習する時間がもう少しあれば、より場の工夫のある学習が展開できたのではと考える。

○研究内容

【外部指導者のお話】

これからの学習の流れの確認



【ハードル基本】

ハードルを走り越す基本的な動き方を指導



【場の設定】

8つの場で実施することで運動量の確保



【練習の様子】

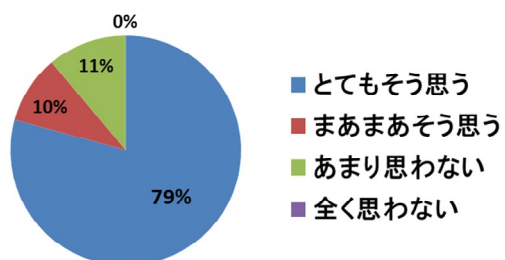
ハードルの基本を実施している様子



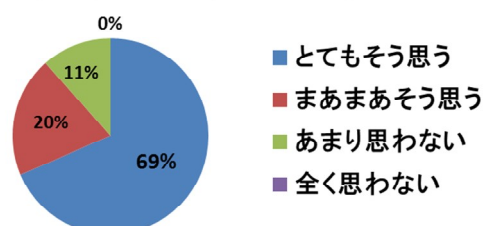
【走・跳の運動に関する意識調査】

外部指導者活用による児童の実態把握

ハードル走の授業は楽しかったですか



体育実技サポーターがいることで、授業は分かりやすかったですか



今回第三学年でのみ、行われた外部指導者の授業であったが、小型ハードル走の授業が楽しかったと答える児童が9割近くいた。また、外部指導者がいることで授業が分かりやすかったと答える児童も9割近くいた。

【今後の取組について】

外部指導者の派遣事業の成果を生かして

本事業で実施した授業である走・跳の運動（小型ハードル走）への取り組み方を本校職員に伝達していきたい。

小学校や地域指導者との連携及び、外部講師を活用した武道の授業実践を通して、生徒の運動能力を高めた実践例

学校名 沼田市立沼田南中学校（群馬県）全学年
全校児童生徒数 178名（男子83名 女子95名）
種目等 武道 体づくり運動 体育理論
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 0278（23）5557
[学校メールアドレス numataminami-j@numata-jhs.ed.jp](mailto:numataminami-j@numata-jhs.ed.jp)

1. 実践研究のねらい

- (1) 校区内の小学校と連携し、段階的な体力向上推進と教員の資質向上を図る。
- (2) 地域指導者を招いた授業を通して、運動の基礎となる体の使い方及び効果的な補強運動を学ぶ。
- (3) 外部講師を活用した剣道の授業実践を通して、望ましい武道授業の在り方について探る。

2. 実践研究の概要

- (1) 主体的な運動習慣を身に付けるために、中学校教員が小学校で授業を行った。
- (2) 体力運動能力調査の結果から、地域の指導者を招いて体力向上を意図した補強運動を学習した。
- (3) 外部講師を招いた剣道の授業において、地域の保健体育教員の指導力向上を図った。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 中学校と小学校との連携

- ①中学校保健体育教諭が、校区内二つの小学校でのTTおよび専科教員として授業を行い、教材教具の提案をしたり、安全に配慮した段階的な実技指導を行ったりした。
- ②体育理論の学習後、実践の場として、校区内小学校のマラソン大会において、中学生がコース試走に関わったり、大会当日には補助員として運営の補助に当たったりするなど、小中合同体育を実施した。

(2) 地域指導者による体づくり運動

- ①地域のスポーツトレーナーが体づくり運動の単元において、スクワットを中心とした姿勢づくりを紹介し、その後も補強運動として他の単元でも実施することができた。

(3) 外部講師による、剣道授業の実施

- ①日本の伝統文化として剣道を捉えるとともに、礼法を重視する中で、武道の本質に迫る授業を実践した。
- ②外部講師を招いた公開授業を実施し、地域の保健体育教員の資質向上を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1. 小学校教員と事前の打合せをすることで、児童の実態把握や配慮事項を確認した。特にマット運動、跳び箱運動では補助の仕方に重点を置いた指導をした。
2. 補強運動では能力に合わせてやさしくしたり、補助者を複数付けたりするなど安全に配慮した。
3. 外部講師と詳細な打合せを実施し、生徒の実態に合わせた授業を計画した。

○成果の意義と今後の課題

1. 中学校教諭が小学校において授業を行ったり、小中合同体育を実施したりしたことは、児童はもちろん、小中学校教員の資質向上の面から意義があった。連携を深めるためには、入念な打合せが必要である。
2. 地域指導者が体づくり運動の授業づくりに関わったことで、生徒の運動能力向上及び、教員の指導力向上を図ることができた。一方で、各領域との関連付けについては、課題であった。
3. 外部講師を招いて剣道の授業を実施したことは、生徒が武道の本質に触れる機会をもつ上で意義があった。また、地域の保健体育教員にも公開したことで、資質向上に寄与することができた。

○研究内容

【小中連携①】

中学校教諭による小学校授業の実施



【小中連携②】

小学校マラソン大会と体育理論を合わせた小中合同体育



【外部講師による授業】

礼とは～武道における礼法から学ぶこと～



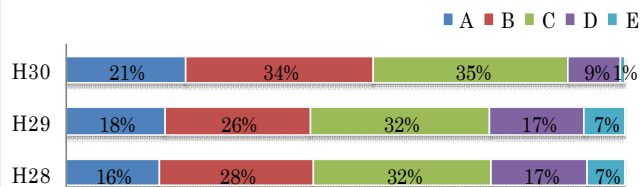
【地域指導者による指導】

姿勢づくりに重点を置いた基本動作の習得



【新体力テストの総合評価】

過去3年間の新体力テストの総合評価推移と学校評価

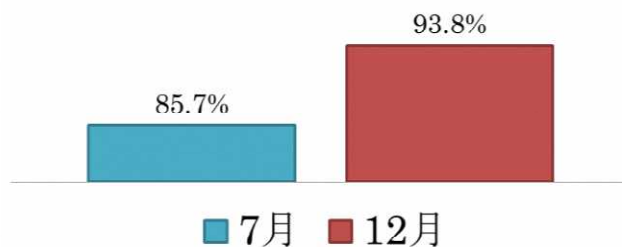


平成30年度は、28年度及び29年度に比べて新体力テストの総合評価A・B段階の生徒が増えた。

一方で、D・E段階の生徒は大幅に減少した。

学校評価においては「健康で体力のある身体を作ろうとする生徒が育っているか」の問に、「とても育っている」及び「育っている」と答えた教師が、7月は85.7%であったのが、12月には93.8%と8.1ポイント増加した。

学校評価における教師の意識（AおよびB）
健康で体力のある身体を作ろうとする生徒が育っているか



【来年度の取組と今後の課題】

小中連携強化と外部講師や外部指導者の活用促進を図る

小中の連携については、来年度以降も継続して行っていく。特に、小学校のマラソン大会に関わる小中合同体育授業については、事前の会議から中学校教員が関わることでさらに改善していくことができると考える。また、地域指導者や外部講師を招いての授業についても、地域の中学校教員の指導力向上や児童生徒への意識を高める手立てとして継続していきたい。

幅広い知識と経験を有する地元大学教授との円滑な連携によって、体づくり運動の学習における、すべての子がいきいきと活動して集団の中で高め合い認め合う体育学習の実践例

学校名 和歌山市立中之島小学校（和歌山県） 5年

全校児童生徒数 299名（男子 154名 女子 145名）

種目等 体づくり運動

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 073（422）5145

学校メールアドレス nakanoshima@wakayama-wky.ed.jp

1. 実践研究のねらい

- (1) 幅広い知識と経験を有する地元大学教育学部教授の指導によって、体づくり運動の学習における単元構成や授業展開等、すべての子が生き生きと活動するための工夫について探る。
- (2) 上記大学教授の指導によって、子供の実態を把握して個や集団に応じた指導を行うことで、体づくり運動に対する関心意欲と運動技能を高める。

2. 実践研究の概要

(1) 課題

学習過程・学習形態の工夫、協働的な学びを効果的に取り入れた指導、指導と評価の在り方

(2) 期待される成果

子供が主体的に学習する姿勢、運動技能の向上、指導と評価の一体化

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1. 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

(1) 学習過程・学習形態の工夫

運動のおもしろさを味わえる学習過程を考えるためにアンケートを活用しながら、単元前半で様々な運動に取り組む時間を十分に確保し、後半で様々な運動から動きを発展させるという学習過程にした。また、授業を展開していく上で、一斉学習、ペア学習、グループ学習といった様々な学習形態を適切に活用し、子供一人一人が課題をもって主体的に学習するように促した。

(2) 協働的な学びを効果的に取り入れた指導

学習目標や課題、成果の共有するために、様々な教具（自作のラダー、バランスボード、身近にある棒など）を工夫するとともに、PDCA サイクルによる授業展開を行った。子供それぞれの能力に応じて教具を選択できたり、PDCA サイクルを繰り返したりすることで、子供たちの学習目標や課題、成果の共有が図られ、より効果的な協働性のある学びが行われた。

(3) 指導と評価の在り方

効果的に資料や学習カードを取り入れることで、子供に分かりやすく視覚化したり、体づくり運動における学習の必然性を高めたりして、結果だけにとらわれない指導と評価を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

オリエンテーションにおいて学習内容を把握するとともに同じ課題ごとにグループを設定して、子供同士で運動の補助をすることで互いに安全を確保するように指導した。

○成果の意義と今後の課題

1. 幅広い知識と経験を有する地元大学教授との円滑な連携によって、体づくり運動の学習における単元構成や授業展開等、子供たちが互いにかかわり合いながら運動技能を高める実践ができた。
2. 子供の実態に即した学習計画等を行ったことで、子供たちが体づくり運動に楽しみながら取り組むとともに、子供の変容や運動技能の向上を適切に評価することができた。

○ 研究内容

【子供同士のかかわり合い】

ペアやグループで取り組める運動を取り入れる



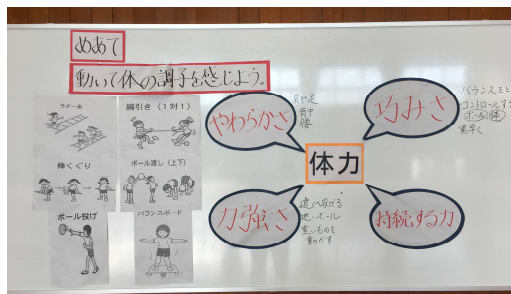
【運動技能を高める学び】

運動中に考えたことや気をつけたことを全体で共有する



【資料による見える化】

体力について言語化し、視覚的に捉えて確認する



【学習カードの効果的活用】

自ら選んだ課題を記入し、自分の活動の振り返る

[illegible]

【アンケートによる実践の検証】

実践の前後にアンケートを実施し、その結果から子供の変容や成果、課題を捉える

体づくり運動の単元の学習前と学習後に、アンケートを実施した結果の一部より

- ・学習前の「体育の授業は好きですか」の質問に「いいえ」と6名答えたが、学習後の「体力を高める運動は楽しめましたか」の質問では「いいえ」が1名になった。
- ・学習前の「運動は好きですか」の質問に「いいえ」と6名答えたが、学習後の「今後、運動に取り組みたいと思いますか」の質問では「はい」と全員が答えた。
- ・今回の実践を通して、体育の授業を前向きに捉えられる子供が増加したことが分かる。また、運動が好きではなかった子供が進んで運動に取り組もうとする姿勢に変わった。

【研究発表会開催による実践の検証】

大学教授を含む外部の先生方とともに、授業における子供の様子から、研究実践の成果と課題を捉える

和歌山市教育委員会より教育研究指定を受け、平成30年11月21日に研究発表会を開催して、本実践（5年「体づくり運動」）の授業公開と研究協議をするともに、大学教授の指導助言をしていただいた。協議内容では、子供たちの運動に対して、積極的に取り組む姿勢がよいと評価していただいた。指導助言では、子供たちの思いを教師が見取って、その思いを授業に活用する必要性を教えていただいた。また、子供が実感しづらい「体力の高まり」を可視化することの重要性を話していただいた。何が高まったのかを、子供たちが目で見て分かる手立てが必要であるとご指導いただいた。来年度も大学教授等に継続してご指導を仰ぎ、さらなる研究実践を深めるとともに、すべての子供たちが生き生きと活動して集団の中で高め合い認め合う体育学習を目指していきたい。